J

YAMAHA

DVDホームシアターシステム

# DVX-1000

**(DVR-1000 + NX-SW1000 + NX-P1000)**

ヤマハDVDホームシアターシステムDVX-1000をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

# 取扱説明書

# 安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

**ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。**

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## ■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

| 記号 | 意味 |
|---|---|
|  | 「ご注意ください」という注意喚起を示します。 |
|  | 「～しないでください」という「禁止」を示します。 |
|  | 「必ず実行してください」という強制を示します。 |

## ■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

# ⚠ 警告

### 電源/電源コード

必ず実行

**電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。**

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

**下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。**

**● 異常なにおいや音がする。 ● 異常に高温になる。**
**● 内部に水や異物が混入した。● 煙が出る。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

**電源コードを傷つけない。**

**● 重いものを上に載せない。**
**● ステープルで止めない。● 加工をしない。**
**● 熱器具には近づけない。● 無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

**必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。**

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

**本機のSTANDBY/ONスイッチでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。また、主電源スイッチを「切」にしても、本機はまだ完全には主電源から遮断されていません。**

**本機を完全に主電源から切り離すためには、電源コードをコンセントから抜いてください。**

### 電池

禁止

**電池を充電しない。**

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

禁止

**電池からもれ出た液には直接触れない。**

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

### 分解禁止

分解禁止

**分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。**

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

## 設置

水ぬれ禁止

**本機を下記の場所には設置しない。**
- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

**放熱のため本機を設置する際には:**
- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

**(DVR-1000の周囲に左右10cm、上10cm、背面10cm以上の、NX-SW1000の周囲に左右30cm、上1m、背面30cm以上のスペースを確保する。)**

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

必ず実行

**スピーカーケーブルは必ず壁などに固定する。**

ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが落下や転倒し、故障やけがの原因となります。

## 使用上の注意

禁止

**ディスクの挿入口や、放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。**

火災や感電の原因になります。

必ず実行

**本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

**雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。**

感電の原因になります。

禁止

**本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。**

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

## 手入れ

必ず実行

**電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。**

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

# ⚠ 注意

## 電源/電源コード

プラグを抜く

**長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。**

火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。**

感電の原因になります。

禁止

**電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。**

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

**電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。**

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

**電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。**

感電や発熱および火災の原因になります。

## 電池

必ず実行

**電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。**

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

**指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。**

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

**電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。**

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

**電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。**
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

**使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。**
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

**使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。**

## 設置

必ず実行

**NX-SW1000は必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。**
重いので、けがの原因になります。

禁止

**不安定な場所や振動する場所には設置しない。**
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

**直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。**
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

**ほこりや湿気の多い場所に設置しない。**
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

禁止

**スピーカーの底面積より狭い場所や傾斜のある場所には設置しない。**
スピーカーが落下や転倒して、けがの原因になります。

注意

**機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。**

必ず実行

**屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。**
工事には、技術と経験が必要です。

## 移動

プラグを抜く

**移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。**
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

## 使用上の注意

必ず実行

**電源を入れる前や、再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。**
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

**音が歪んだ状態で長時間使用しない。**
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止

**大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。**
聴覚障害の原因になります。

禁止

**ディスクの挿入口には手を入れない。**
本機のメカニズムに手を引き込まれ、けがの原因になります。

禁止

**ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクを使用しない。**
ディスクは、機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因になります。

注意

**環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。**
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

注意

**本機はデジタル信号を扱います。ほかの電気製品に障害をあたえるおそれがあります。**
それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

禁止

**レーザー光源をのぞき込まない。**
レーザー光が目に当たると、視覚障害の原因になります。

禁止

**業務用機器とは接続しない。**
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

## 手入れ

必ず実行

**手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。**
感電の原因になります。

禁止

**薬物厳禁**
**ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。**
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

# 目次



## 1. はじめに



## 2. 設置と接続



## 3. 準備と設定



## 4. 再生操作



## 5. オンスクリーンメニュー



## 6. その他の機能

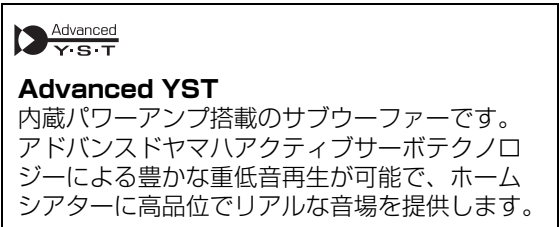


## 7. 付録

# はじめに

DVD ホームシアターシステム DVX-1000 をご購入いただき、誠にありがとうございます。DVX-1000 は、DVD 一体型 2.1 チャンネルホームシアターです。本書は接続方法および基本的な操作方法について説明しています。

本機の主な特徴は以下のとおりです。
- 幅広い光ディスクフォーマットに対応した DVD プレーヤー
- Dolby Digital、DTS など幅広い再生フォーマットに対応
- 高品質な２ way 方式のフロントおよび A-YST サブウーファー

**Advanced YST**
内蔵パワーアンプ搭載のサブウーファーです。アドバンスドヤマハアクティブサーボテクノロジーによる豊かな重低音再生が可能で、ホームシアターに高品位でリアルな音場を提供します。

### 再生できるディスク／フォーマット

本機は以下のディスクを再生できます。
- DVD ビデオ、ビデオ CD、スーパービデオ CD、オーディオ CD、CD-R、CD-RW、DVD+RW、DVD+R、DVD-R、DVD-RW（Video フォーマット、VR フォーマット）

本機は以下のファイルやフォーマットを再生できます。
- CD-R/RW、DVD-R/RW、DVD+R/RW に記録された MP3、Kodak、JPEG ファイル
- ISO 9660 対応の JPEG フォーマット
  最大表示文字数 30（英数字のみ）
- CD-R(W)/DVD-R(W)/DVD+R(W)(3.11、4.x、5.x) に記録された DivX® ディスク

**ご注意**

- ファイナライズされていない CD-R、CD-RW や DVD-RW （VR フォーマット）ディスクは再生できません。ファイナライズとは、再生対応機器で再生できるように処理することです。
- 記録方法（PC 環境やソフトウェアなど）やディスクの状態（傷やそりがあるなど）によっては再生できない場合があります。
- 信用できるメーカーのディスクを使用してください。録音状態やディスクの特性によっては、再生できない場合があります。
- ハート型などの特殊形状のディスクは使用しないでください。
- ディスクにテープやシールなどを貼ったり、のりなどをつけないでください。
- 市販のラベルプリンターで表面に印刷したディスクは使わないでください。
- DVD ビデオ、ビデオ CD の中には操作や機能が本書の記載と異なる場合があります。これはソフト制作者の意図によるもので、本機の故障ではありません。

### ディスクのお取扱いについて

- ディスクが汚れたときは、乾いた柔らかい布で中心から外側へ拭いてください。その際、レコードクリーナーやシンナーなどを使わないでください。
- 本機、乾電池、あるいはディスクを保管する際には、直射日光のあたるところや温度の高いところ、湿気やほこりの多いところは避けてください。
- ディスクを持つときは、ディスクの縁や真中の穴を持つようにして、表面に触れないでください。

### DVD ビデオのリージョンコードについて

DVD プレーヤーと DVD ビデオディスクにはリージョンコード（発売地域ごとに割り当てられた識別番号）が決められています。本機では下表のディスクが再生できます。
詳しくはディスクのジャケットなどの記載もご覧ください。

| 仕向け | 本機の リージョンコード | 再生できるディスクの リージョンコード |
|---|---|---|
| 日本 | 2 | 2　ALL<br>または複数のリージョンコードに 2 が入っているディスク |

## 著作権

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」及びダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS および DTS Digital Out はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

DivX、DivX Ultra Certified、および関連するロゴは、DivX, Inc. の商標です。これらの商標は、DivX, Inc. の使用許諾を得て使用しています。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 08/937,950 | 5,633,981 | 5,227,788 | 5,299,239 |
| 5848391 | 5 297 236 | 5,285,498 | 5,299,240 |
| 5,291,557 | 4,914,701 | 5,481,614 | 5,197,087 |
| 5,451,954 | 5,235,671 | 5,592,584 | 5,490,170 |
| 5 400 433 | 07/640,550 | 5,781,888 | 5,264,846 |
| 5,222,189 | 5,579,430 | 08/039,478 | 5,268,685 |
| 5,357,594 | 08/678,666 | 08/211,547 | 5,375,189 |
| 5 752 225 | 98/03037 | 5,703,999 | 5,581,654 |
| 5,394,473 | 97/02875 | 08/857,046 | 05-183,988 |
| 5,583,962 | 97/02874 | 08/894,844 | 5,548,574 |
| 5,274,740 | 98/03036 | 5,299,238 | 08/506,729 |

DCDi は、Genesis Microchip Inc. の事業部門である Faroudja の商標です。

HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

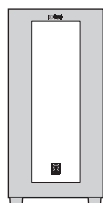
本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社及びその他の著作権利者が保有する米国特許及びその他の知的財産権によって保護されています。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、またマクロビジョン社の特別な許可がない限り家庭用及びその他の一部の視聴用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。

**音楽を楽しむエチケット**

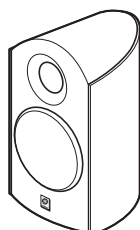
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

## ■ DVX-1000 の構成

DVD レシーバー
(DVR-1000)

サブウーファー
(NX-SW1000)

**ご注意**

DVD レシーバーの電源を ON するとき、サブウーファーの電源コードはコンセントにつながっている必要があります。つながっていない状態で DVD レシーバーの電源を ON すると、サブウーファーは正常に動作しません。

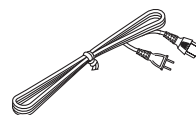
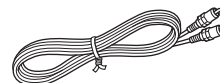
フロントスピーカー
(NX-P1000) × 2

## ■ 付属品

FM 簡易アンテナ

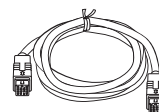
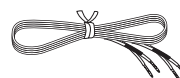
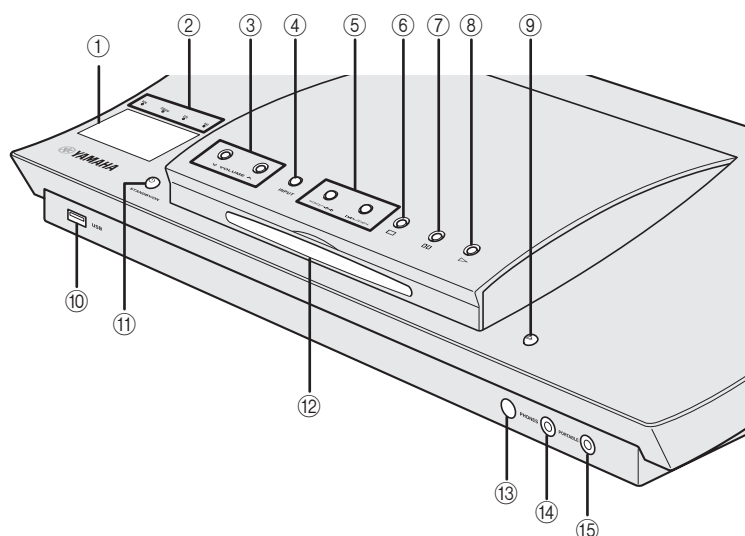
AM ループアンテナ

リモコン

単 3 電池（2 本）

電源コード

ビデオ用ピンケーブル
（1.4m × 1 本）

システム接続ケーブル
（4m ×１本）
(NX-SW1000)

スピーカーケーブル
（4m × 2 本）
（NX-P1000）

# 各部の名称とはたらき

## ■ フロントパネル（DVR-1000）

① **ディスプレイ**
再生の状態や設定を表示します。

② **PCM/▯▯ Digital/DTS/AAC ランプ**
再生している音声のフォーマットを表示します。

③ **∨ VOLUME（ボリューム） ∧**
音量を調節します。

④ **INPUT（インプット） キー**
入力する音声を選択します。

⑤ **|◁◁ / ◁◁ 、▷▷ / ▷▷| キー（早戻し / 早送り、スキップキー）**
DVD/CD モード：前 / 次のトラックまたはチャプターにスキップします。長押しすると早戻し / 早送りすることができます。
TUNER モード：登録した放送局を選択します。
USB モード : 前 / 次のトラックにスキップします。長押しすると早戻し / 早送りすることができます。

⑥ **□ キー（停止キー）**
DVD/CD モード：ディスク再生を停止します。
TUNER モード：オートプリセットを解除します。
USB モード : 再生を停止します。

⑦ **▯▯ キー（一時停止キー）**
DVD/CD モード：ディスク再生を一時停止します。
USB モード : 再生を一時停止します。

⑧ **▷ キー（再生キー）**
DVD/CD モード：ディスクを再生します。
USB モード : 再生を開始します。

⑨ **⏏ キー（ディスク取り出しキー）**
本機にセットされているディスクを取り出します。

**ご注意**

⏏ キーを押すと、本機からディスクを取り出します。（ディスクの半分がディスク挿入口から出た状態になります。）この際、ディスクを再度本機に挿入する場合は、⏏ キーまたは ▷ キーを押すか、ディスク挿入口からディスクを完全に取り出してから再度挿入してください。ディスクがイジェクトされた状態で無理に押し込むと、故障の原因になります。

⑩ **USB ポート**
USB 機器を接続します。(20 ページ )

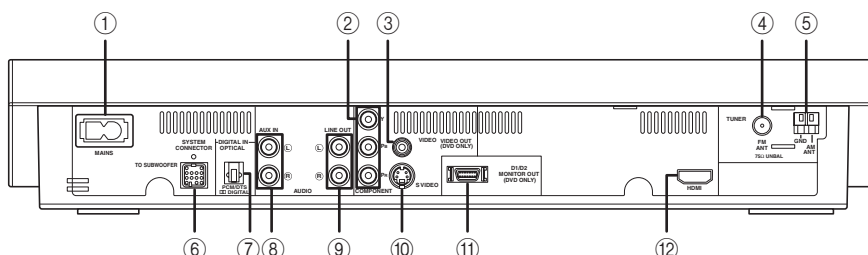
⑪ **STANDBY（スタンバイ）/ON（オン） キー**
電源モード（スタンバイ / オン）を切り替えます。スタンバイ中は、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量の電力を消費します。

⑫ **ディスク挿入口**
再生するディスクを挿入します。

⑬ **リモコン受光窓**
リモコンの信号を受信します。

⑭ **PHONES 端子（ヘッドホン端子）**
ヘッドホンを接続します。

⑮ **PORTABLE 端子（ポータブル端子）**
ポータブルオーディオプレーヤーを接続します。
この入力端子が選択されているときは、ディスプレイに「FRONT IN」と表示されます。

## ■ リアパネル（DVR-1000）

① **電源コード差込口**
電源コードを接続します。

② **COMPONENT VIDEO OUT 端子（コンポーネントビデオ出力端子）**
テレビのコンポーネントビデオ入力端子に接続します。（15 ページ）

③ **VIDEO 出力端子（モニター出力端子）**
AV 機器のビデオ入力端子に接続します。

④ **FM ANT（アンテナ）端子**
FM 簡易アンテナを接続します。

⑤ **AM ANT（アンテナ）/GND 端子**
AM ループアンテナを接続します。

⑥ **SYSTEM CONNECTOR 端子（システム接続端子）**
サブウーファーのシステム接続端子へ接続します。

⑦ **OPTICAL DIGITAL IN 端子（光デジタル入力端子）**
AV 機器の光デジタル出力端子に接続します。

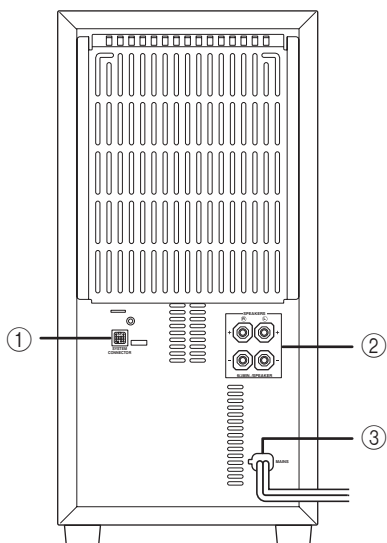
⑧ **AUX IN 端子（AUX 入力端子）**
カセットデッキやビデオデッキのオーディオ出力端子に接続します。

⑨ **LINE OUT 端子（LINE 出力端子）**
ビデオデッキのオーディオ入力端子に接続します。

⑩ **S VIDEO 出力端子（S ビデオ出力端子）**
AV 機器の S ビデオ入力端子に接続します。

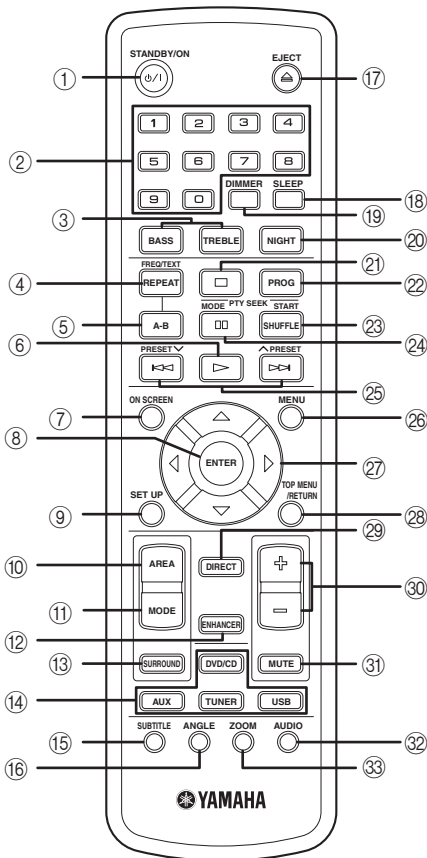
⑪ **D1/D2 MONITOR OUT 端子（D1/D2 モニター出力端子）**
AV 機器の D1/D2 ビデオ入力端子に接続します。

⑫ **HDMI 端子**
HDMI 入力端子に接続します。(16 ページ)

## ■ リアパネル（NX-SW1000）

① **システム接続端子**
DVD レシーバーのシステム接続端子へ接続します。

② **スピーカー端子**
スピーカーに接続します。

③ **電源コード**
電源コンセントに接続します。

## ■ リモコン

**ご注意**

リモコンの操作方法について詳しくは 21 ページをご参照ください。

① **STANDBY/ON（⏻/I）キー**
DVD レシーバーの電源モード（スタンバイ / オン）を切り替えます。

② **数字キー（0-9）**
トラック番号やチャプター番号を入力する際に使用します。
登録した放送局を選択します。

③ **TREBLE/BASS キー**
TREBLE（高音域）と BASS（低音域）の出力レベルを切り替えます。

④ **REPEAT キー**
リピート再生を設定します。

⑤ **A-B キー**
指定した部分のみを繰り返し再生します（A-B リピート）。

⑥ **▷ キー**
DVD/CD モード : ディスクを再生します。
USB モード : 再生を開始します。

⑦ **ON SCREEN キー**
DVD レシーバーのオンスクリーン情報の表示をオン / オフにします。

⑧ **ENTER（決定）キー**
選択を決定します。

⑨ **SET UP キー**
セットアップメニューの表示をオン / オフにします。

⑩ **AREA キー**
バーチャルサラウンドの範囲を切り替えます（44 ページ）。

⑪ **MODE キー**
バーチャルサラウンドのモード（44 ページ）を切り替えます。

⑫ **ENHANCER（音質切り替え）キー**
音質を切り替えます（45 ページ）。

⑬ **SURROUND キー**
サラウンドエフェクトを設定します（44 ページ）。

⑭ **入力選択キー**
入力を切り替える際に使用します。
DVD/CD：DVD/CD モードに切り替えます。
AUX：「ANALOG」（アナログ音声入力）/「DIGITAL」（デジタル音声入力）/「FRONT IN」（PORTABLE 端子）を切り替えます。
TUNER：TUNER モードに切り替えます。また、FM/AM 入力を切り替えます。
USB : USB モードに切り替えます。再生 / メニュー画面に戻るには 31 ページをご参照ください。

⑮ **SUBTITLE（字幕）キー**
字幕言語を切り替えます。

⑯ **ANGLE キー**
ディスクアングル（表示角度）を切り替えます。

⑰ **EJECT（取り出し）（ ⏏ ）キー**
本機にセットされているディスクを取り出します。

⑱ **SLEEP キー**
スリープタイマーを設定します（46 ページ）。

⑲ **DIMMER（明るさ）キー**
フロントパネルディスプレイの明るさを調節します（46 ページ）。

⑳ **NIGHT キー**
ナイトリスニングを設定します（45 ページ）。

㉑ **□ キー**
DVD/CD モード：再生を停止します。長押しするとディスクを取り出します。
TUNER モード：長押しすると、プリセットを解除します。
USB モード : 再生を停止します。

㉒ **PROG キー**
DVD/CD モード：プログラム再生を設定します。
TUNER モード：２秒以上長押しすると、自動 / 手動プリセットを設定します。

㉓ **SHUFFLE キー**
トラックを順不同で再生します。

㉔ **II キー**
DVD/CD モード：ディスク再生を一時停止します。
USB モード : 再生を停止します。

㉕ **|◁◁ / ▷▷| キー（早戻し / 早送り、スキップキー）**
DVD/CD モード：前 / 次のトラックまたはチャプターにスキップします。長押しすると早戻し / 早送りします。
USB モード : 前 / 次のトラックにスキップします。長押しすると早戻し / 早送りします。

**∨PRESET∧**
TUNER モード：登録した放送局を選択します。

㉖ **MENU キー**
メニュー画面の表示をオン / オフにします。（ビデオ CD バージョン 2.0 の場合）プレイバックコントロール（PBC）の表示をオン / オフにします。ディスク再生中に押すと、トップメニューに戻ります。

㉗ **◁ / ▷ / △ / ▽ キー（左 / 右 / 上 / 下キー）**
メニュー画面などで項目を選択、変更します。
TUNER モード：◁ / ▷ キーでラジオ周波数の調節をします。△ / ▽ キーで登録した放送局を選択します。

㉘ **TOP MENU/RETURN キー**
前のメニュー画面に戻ります。
ディスクの最初のメニュー画面を表示します。

㉙ **DIRECT キー**
オーディオダイレクト機能（映像のないディスクの再生時にビデオ出力を止める機能）をオン / オフします。
HDMI 出力には対応していません。
ダイレクトモード中のフロントパネルディスプレイは「DIM 2」の明るさ (40% の明るさ ) になります。

㉚ **VOLUME（＋ / －）キー**
音量を調節します。

㉛ **MUTE（消音）キー**
消音します。消音を解除するには、再度 MUTE（消音）キーを押します。

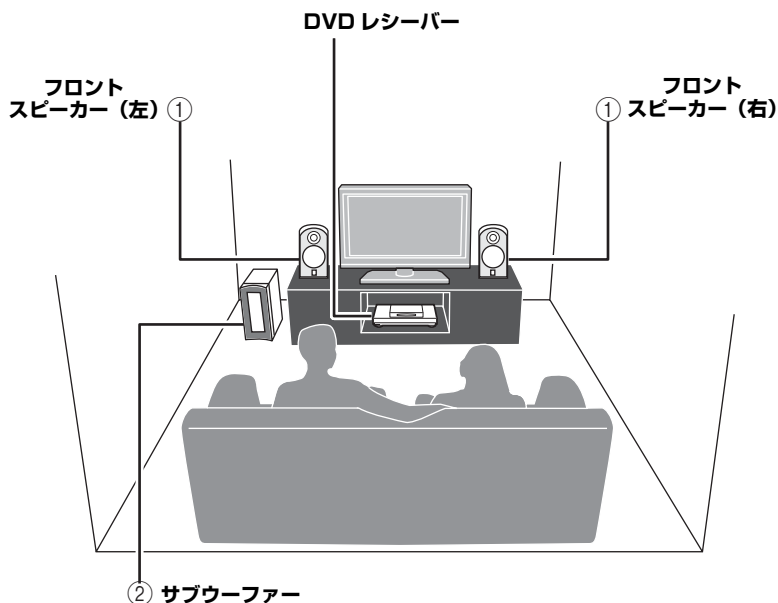
㉜ **AUDIO（音声）キー**
音声言語（DVD）、音声チャンネル（ビデオ CD）または AAC（アドバンストオーディオコーディング）主音声 / 副音声を切り替えます。

㉝ **ZOOM キー**
映像を拡大します。

# スピーカーの設置



## ■ 各スピーカーの役割と設置場所

臨場感あるサラウンドを十分にお楽しみいただくためには、スピーカーを安定した場所に適切に設置する必要があります。以下はおすすめする設置例です。

**それぞれのスピーカー（サブウーファー以外）は、視聴位置からほぼ同じ距離に設置すると最も効果的な音響効果が得られるように設計されています。**

① **フロントスピーカー ( 右、左）**
テレビを中心に左右同じ距離で設置します。主にフロントチャンネル（ステレオ）の音と効果音を出力します。

② **サブウーファー**
サブウーファーは、前方の左右どちらかに設置します。壁の反射を防ぐため、少し内側に向けて設置してください。主に低音を強調して出力します。

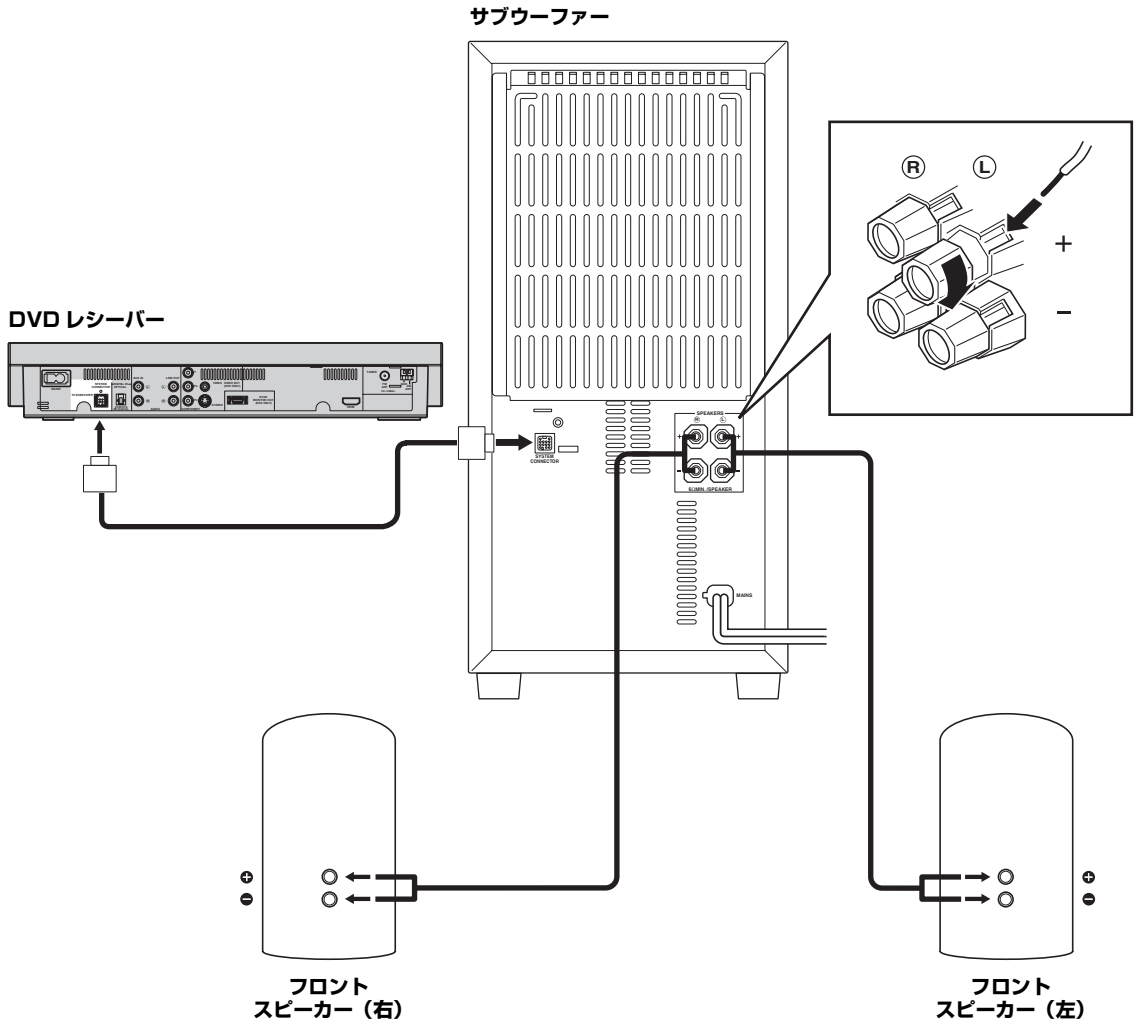
**ご注意**

– 本システムは防磁設計となっていますが、テレビやモニターの映像が乱れる場合は、フロントスピーカーをテレビやモニターから離して設置してください。
– DVD レシーバーとサブウーファーを設置する際には、放熱のために適度なスペースを確保してください。
– 低音の聴こえかたは、サブウーファーを置く位置や聴く位置によって異なりますので、設置場所を変えてお楽しみください。

# システム接続

## ■ スピーカーを接続する

**ご注意**

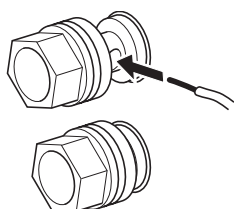
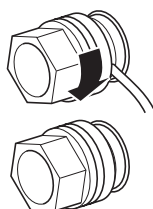
– DVD レシーバーとサブウーファーの電源コードは、すべてのケーブル接続が完了してから接続してください。
– 付属のスピーカーケーブルは、赤い線と黒い線の長さが違う側をフロントスピーカーに接続してください。接続したケーブルは下方に垂らした状態にしてください。
– サブウーファーおよびフロントスピーカーの赤い端子に赤い線を、黒い端子に黒い線を接続してください。

## フロントスピーカーを接続する

**ご注意**

– 付属のスピーカーケーブルは、赤い線と黒い線の長さが違う側をフロントスピーカーに接続してください。接続したケーブルは下方に垂らしてください。
– サブウーファーおよびフロントスピーカーの赤い端子に赤い線を、黒い端子に黒い線を接続してください。

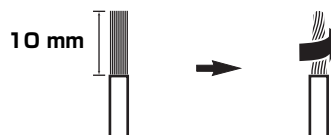
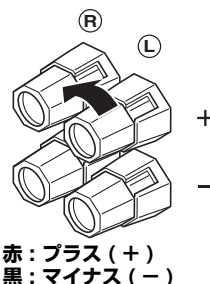
① それぞれのスピーカーケーブルの先端の絶縁部（被覆）を 10mm ほどはがして、露出されたワイヤーをしっかりとよじります。しっかりよじらないとショート（接触）の原因になります。

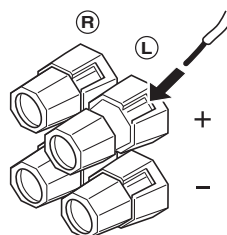
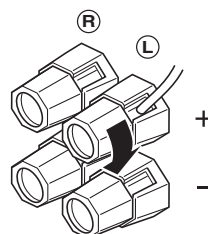
② スピーカー端子を左に回してゆるめます。

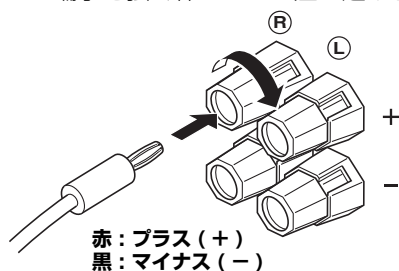
③ それぞれのスピーカー端子の穴に、露出されたスピーカーケーブルの先端を差し込みます。

④ スピーカー端子を右に回して締めます。

## サブウーファーを接続する

**ご注意**

サブウーファーおよびフロントスピーカーの赤い端子に赤い線を、黒い端子に黒い線を接続してください。

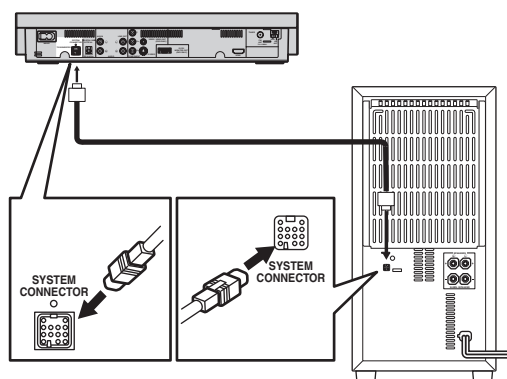
① それぞれのスピーカーケーブルの先端の絶縁部（被覆）を 10mm ほどはがして、露出されたワイヤーをしっかりとよじります。しっかりよじらないとショート（接触）の原因になります。

② スピーカー端子を左に回してゆるめます。

赤 : プラス ( + )
黒 : マイナス ( – )

③ それぞれのスピーカー端子のわきの穴に、露出されたスピーカーケーブルの先端を差し込みます。

④ スピーカー端子を右に回して締めます。

## バナナプラグ（市販）を接続する場合

スピーカー端子を強く締めてから差し込みます。

**ご注意**

– スピーカーケーブルは、プラス（＋）とマイナス（－）がショート（接触）しないように接続してください。DVD レシーバーやスピーカーが破損する原因となります。
– スピーカーを接続する際は、スピーカーケーブルを必ず固定してください。誤って手や足に引っ掛かると、スピーカーが落下する原因となります。

## DVD レシーバーとサブウーファーを接続する

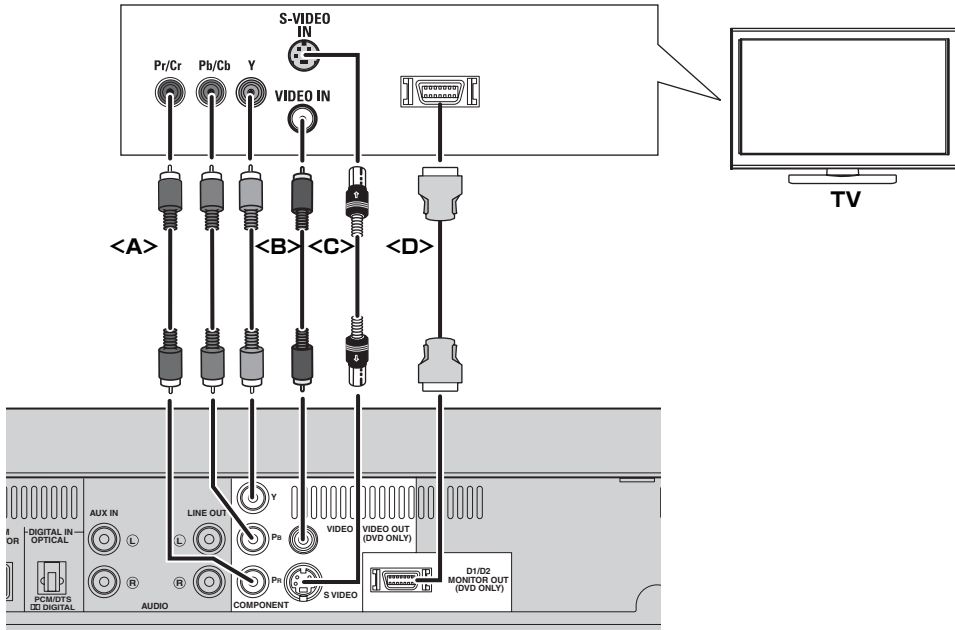
システム接続ケーブルでシステム接続端子間を接続します。

**ご注意**

– システム接続ケーブルを接続する際は、カチッと音がするまでしっかり奥へ差してください。ケーブルを抜くときは外側のスライドを手前に引いてロックを外してから抜いてください。
– サブウーファーを DVD レシーバー、AC アダプター、テレビ、電波を発する機器などに近づけすぎないでください。雑音が発生することがあります。
– DVD レシーバーの電源を ON するとき、サブウーファーの電源コードはコンセントにつながっている必要があります。つながっていない状態で DVD レシーバーの電源を ON すると、サブウーファーは正常に動作しません。

# その他の接続

## ■ テレビを接続する

**ご注意**

– お使いのテレビにあわせて下記 **(A)、(B)、(C)、(D) の中からいずれかを選択して映像信号を接続してください。**
– すべてのケーブル接続をしてから、DVD レシーバーおよびテレビの電源コードを接続してください。
– テレビの光デジタル出力端子から音声信号を DVD レシーバーに入力する場合、「デジタルオーディオ機器を接続する」(20 ページ) を参考にして、DVD レシーバーの光デジタル入力端子に接続してください。

### コンポーネントビデオ出力端子 <A>

別売りのコンポーネントビデオケーブル（赤 / 青 / 緑 ) で DVD レシーバーの Y PB PR 端子とテレビのコンポーネントビデオ入力端子（もしくは Y Pb/Cb Pr/Cr/ YUV 端子）を接続します。
プログレッシブ機能を有効にするには、38 ページをご参照ください。

### モニター出力端子 <B>

付属のビデオ用ピンケーブルを使用して DVD レシーバーのモニター出力端子とテレビの映像入力端子を接続します。

### S ビデオ出力端子 <C>

輝度信号と色差信号を分けて伝送し、一般的な映像信号（コンポジット）より美しい映像を再生します。市販の S ビデオケーブルを使用して DVD レシーバーの S ビデオ出力端子とテレビの S ビデオ入力端子を接続します。

### D1/D2 モニター出力端子 <D>

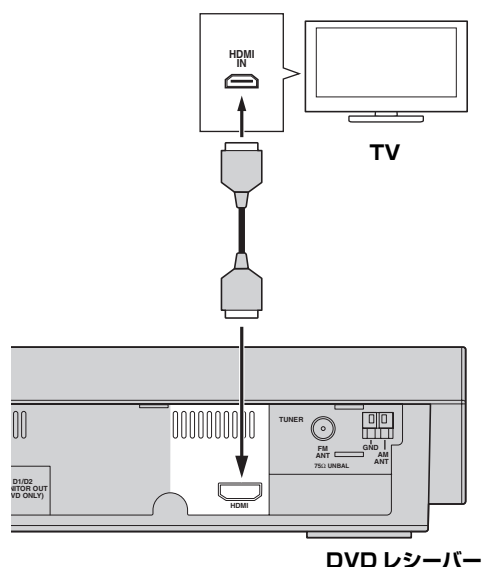
輝度信号と 2 種類の色差信号を分けて伝送し、S ビデオよりさらに美しい映像を再生します。市販のケーブルを使って、D1/D2 モニター入力端子に接続してください。

**ご注意**

– D1/D2 モニター出力端子 / コンポーネントビデオ出力端子は、プログレッシブ信号を出力できます。プログレッシブ対応のテレビを使用してさらに高画質な映像をお楽しみいただく場合は、DVD レシーバーの D1/D2 モニター出力端子 / コンポーネントビデオ出力端子をテレビの D 端子 / コンポーネントビデオ入力端子に接続します。
– テレビ側もプログレッシブ対応しているかご確認ください。
– プログレッシブ出力に設定している時、モニター出力端子と S ビデオ出力端子からは信号が出力されません。

## ■ HDMI 機器を接続する

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は、非圧縮のデジタル音声 / 映像インターフェイスです。HDMI ケーブル一本で、標準またはハイビジョン映像とマルチチャンネルのデジタル音声をお楽しみいただけます。

HDCP(High-bandwidth Digital Content Protection) と HDMI を併用すると、コンテンツプロバイダーとシステム管理者にとって安全な音声 / 映像インターフェイスをご提供できます。

### HDMI で再生する

① 市販の HDMI ケーブルを使用し、DVD レシーバーの HDMI 出力端子とお使いの HDMI 対応機器の HDMI 入力端子を接続します。

② 「オーディオ設定ページ」の「HDMI 音声出力」（35 ページ）からオーディオ出力を設定します。

③ 「映像設定ページ」の「HDMI 映像」（38 ページ）から映像出力を設定します。

**ご注意**

– 本機は HDCP 非対応の HDMI/DVI 機器には対応していません。
– 他の DVI 機器に接続するときは、別売りの HDMI/DVI 変換ケーブルが必要です。
– HDMI 接続については、HDMI 接続する機器の取扱説明書もご参照ください。
– データ転送中に HDMI を接続 / 解除または HDMI/DVI の電源をオフにしないでください。
画像が乱れたり、雑音が発生することがあります。

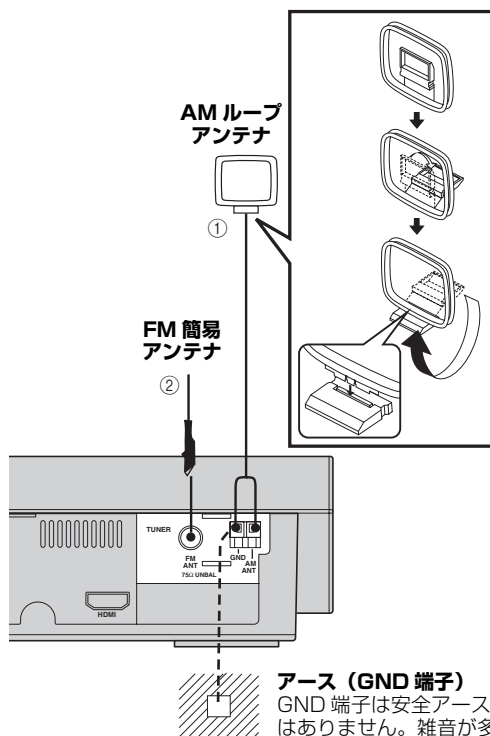
## HDMI オーディオ出力

| オーディオフォーマット | | アナログ出力 | HDMI 音声出力 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | オート | PCM | OFF |
| DVD ビデオ | ドルビーデジタルマルチチャンネル | マルチ *1 | ドルビーデジタル *2*3 | PCM 2 チャンネル | オフ |
| | | ステレオ | | | |
| | ドルビーデジタル 2 チャンネル | マルチ *1/ ステレオ | ドルビーデジタル *2 | | |
| | DTS マルチチャンネル | マルチ *1 | DTS*2*3 | | |
| | | ステレオ | | | |
| | DTS 2 チャンネル | マルチ *1/ ステレオ | DTS*2 | | |
| | MPEG マルチチャンネル | マルチ *1 | MPEG*2*3 | | |
| | | ステレオ | | | |
| | MPEG 2 チャンネル | マルチ *1/ ステレオ | MPEG*2 | | |
| | PCM 2 チャンネル *4 | マルチ *1/ ステレオ | PCM 2 チャンネル | | |
| CD/MP3/WMA/DivX | 2 チャンネル | マルチ *1/ ステレオ | PCM 2 チャンネル | | |
| DTS-CD | マルチチャンネル | マルチ *1 | DTS*2*3 | | |
| | | ステレオ | | | |
| | 2 チャンネル | マルチ *1/ ステレオ | DTS*2 | | |
| VCD | 2 チャンネル | マルチ *1/ ステレオ | PCM 2 チャンネル | | |
| SVCD | マルチチャンネル | マルチ *1 | MPEG*2*3 | | |
| | | ステレオ | | | |
| | 2 チャンネル | マルチ *1/ ステレオ | MPEG*2 | | |

*1: マルチチャンネル信号は、2 チャンネルにダウンミックスして出力されます。
*2: HDMI 機器がドルビーデジタル、DTS、MPEG などのビットストリーム信号に対応していない場合、オーディオ出力は自動的に PCM 信号になります。
*3: HDMI 機器がマルチチャンネルオーディオ信号に対応していない場合、オーディオ出力は PCM マルチチャンネル信号から 48kHz/16 ビットかそれ以下の PCM ステレオ信号になります。
*4: HDMI 機器が 48kHz 以上に対応していない場合、オーディオ出力は自動的に 48kHz/16 ビットの信号かそれ以下になります。

**ご注意**

あらかじめ「HDMI 音声出力」を設定する必要があります。(35 ページ )

## ■ FM/AM アンテナを接続する

**アース（GND 端子）**
GND 端子は安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減することができます。アースは市販のアース棒か銅版に被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

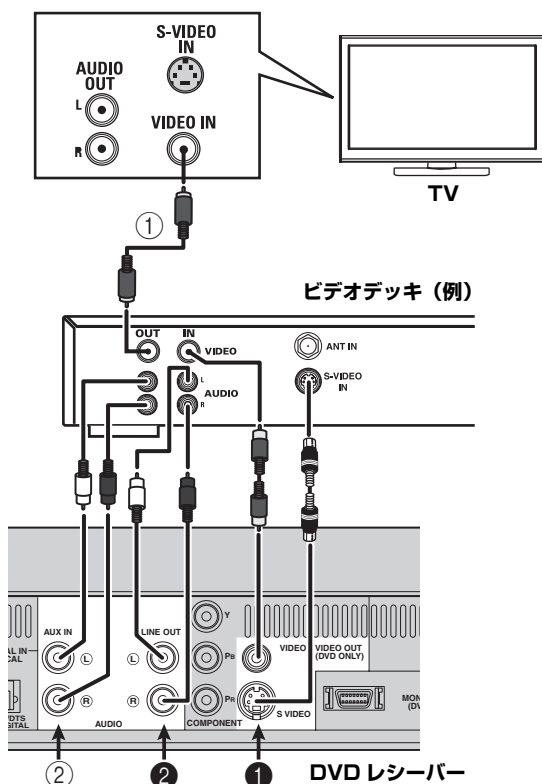
① 付属のAMループアンテナをDVDレシーバーの AM ANT 端子に接続します。アンテナをアンテナスタンドや壁などに設置します。アンテナを壁に設置する場合は、アンテナスタンドは必要ありません。

② 付属のFM簡易アンテナをDVDレシーバーの FM ANT 端子に接続します。別売りの屋外アンテナを使用することによって、受信状態を良くすることができます。

**ご注意**

- 放送局を受信している際に、アンテナを左右に回して受信状態が良いアンテナの角度を探してください。
- 雑音を軽減するため、アンテナをテレビ、ビデオデッキなど電波を発する機器からできるだけ離れた場所に配置してください。

## ■ その他の AV 機器を接続する

ビデオデッキ、カセットデッキなどの外部 AV 機器を DVD レシーバーのオーディオ端子に接続すると、外部 AV 機器の音声をお楽しみいただけます。また録音機器を接続すると、DVD レシーバーで再生している音声を録音することも可能です。ここでは DVD レシーバーと外部機器の接続方法例を説明します。外部 AV 機器については、ご使用の機器に付属している取扱説明書をご参照ください。



### 再生する

① ビデオデッキを上図のようにテレビに接続します。

② DVD レシーバーの AUX 入力端子とビデオデッキのオーディオ出力端子を接続します。再生を開始する前に、AUX キーを押して「ANALOG」を選択します。

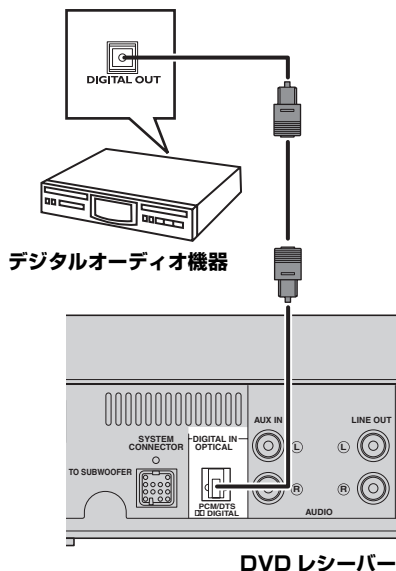
### ビデオデッキを使って録画する

❶ DVD レシーバーのモニター出力端子とビデオデッキのビデオ入力端子を接続します。または、S ビデオ出力端子とビデオデッキの S ビデオ入力端子を接続します。

❷ DVD レシーバーの LINE 出力端子とビデオデッキの音声入力端子を接続します。これによりアナログステレオ録音（2 チャンネル）が可能になります。

**ご注意**

コピープロテクトがかかっている DVD は録画できません。

## ■ デジタルオーディオ機器を接続する

### デジタルオーディオ機器を再生する

DVD レシーバーの光デジタル入力端子とデジタルオーディオ機器のデジタル出力端子を接続します。

再生を開始する前に、AUX キーを押して「DIGITAL」を選択してください。

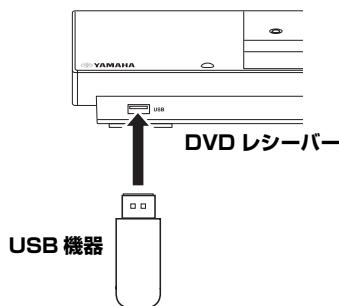
**ご注意**

– デジタル接続の場合、ソース機器の設定によっては、MP3-CD などの音声が出力されないことがあります。
– デジタルオーディオ機器の接続や使用方法については、ご使用の機器に付属している取扱説明書をご参照ください。

## ■ USB 機器を接続する

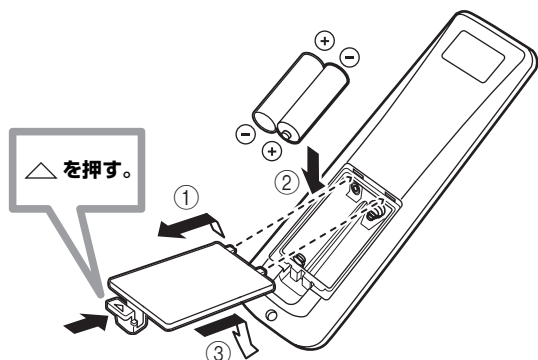
### USB ポート

USB 機器に保存された MP3、WMA、AAC ファイルを呼び出します。

DVD レシーバーのフロントパネル部分にある USB ポートに、USB 機器を接続してください。

**ご注意**

USB 機器によって、認識されないこともあります。詳しくは「USB 機器について」(31 ページ ) をご参照ください。

# リモコンの準備と基本設定

## ■ リモコンに電池を入れる

① バッテリーカバーの △を押し、バッテリーカバーをリモコンから取り外します。

② 付属の単３乾電池 (2 本 ) を電池ケースに挿入します。電池の向き ( ＋ / －極性 ) を正しく挿入してください。

③ バッテリーカバーを装着します。

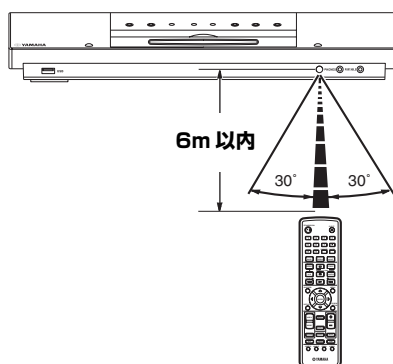
**電池を交換する**

リモコンの電池が消耗すると、リモコンで DVD レシーバーを操作できる距離が極端に短くなります。このような場合、早めに新しい電池と交換してください。

**ご注意**

- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも、性質の異なる場合がありますのでご注意ください。
- 使い切った電池は、ただちにリモコンから取り出してください。リモコンに挿入したままにしておくと、破裂や液漏れの原因となります。
- 使い切った電池は、地域の条例または取り決めに従って廃棄してください。
- 電池が液漏れしている場合は、ただちに電池をリモコンから取り出し、廃棄してください。その際、肌や衣服が漏れているバッテリー液に触れることのないよう十分ご注意ください。リモコンにバッテリー液が付着している場合はきれいに拭き取ってから新しい電池を挿入してください。
- リモコンから電池を取り出したら、2 分以内に新しい電池を挿入してください。これ以上の時間が経過すると、リモコンのメモリー内容が消去されます。

## ■ リモコンを使用する

リモコンで DVD レシーバーを操作する際は、リモコン赤外線送信部を本体のリモコン受光窓に向けます。リモコン操作が可能な範囲は、本体から 6m 以内です。

① 目的に応じてリモコンの DVD/CD キーなどの入力選択キーを押します。
→ 選択した操作モードがディスプレイに表示されます。

② ▷ や |◁◁ / ▷▷| キーなどで入力を切り替えて、お好みの機能を選択します。

**ご注意**

- リモコンに水や飲み物をこぼさないようご注意ください。
- リモコンを落としたり、強い衝撃を与えたりしないようご注意ください。
- リモコンを以下のような場所に放置しないでください。
  - 気温・湿度が高い場所（ヒーターの近くや風呂場など）
  - 極端に気温が低い場所
  - ほこりっぽい場所

## ■ テレビを設定する

**ご注意**

– 設定前に、すべてのケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。詳しくは「テレビを接続する」（15 ページ）をご参照ください。

– 設定中に前のメニューに戻るには、◁キーを押してください。

– メニュー画面を閉じるには、SET UP（セットアップ）キーを押してください。

– 設定が適切でないときは、すべての設定をデフォルトに戻すことができます（「デフォルト」41 ページ）。

① DVD/CD キーを押します。

→ ディスプレイに「DVD CD」と表示されます。

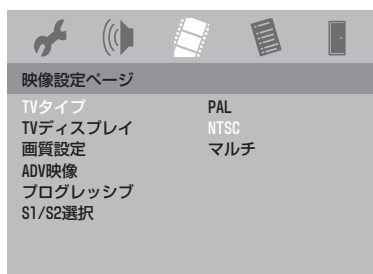
② テレビの電源を入れます。テレビの映像入力切替を操作して DVD レシーバーの映像に切り替えます。

### テレビの映像出力タイプを設定する

DVD レシーバーから出力する映像方式を「PAL」、「NTSC」、「マルチ」から選択できます。日本国内では通常、初期設定の「NTSC」を変更する必要はありません。

① DVD/CD モードに設定します。SET UP（セットアップ）キーを押してテレビ画面にセットアップメニューを表示させます。

② ◁ / ▷ キーを押して「映像設定ページ」を選択し、メニューページに入ります。

③ △ / ▽ キーを押して「TV タイプ」を選択し、▷ キーで決定します。

④ △ / ▽ キーを押してテレビの映像方式に応じて「PAL」、「NTSC」、「マルチ」のいずれかを選択します。

**「PAL」**－ PAL 方式のテレビをご使用の場合に選択します。海外で使用されている映像信号方式のひとつです。NTSC で収録されたディスクは PAL に変換されて出力されます。

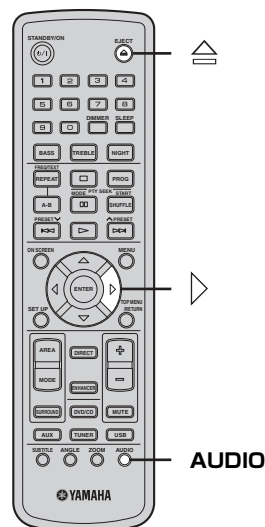
**「NTSC」**－ NTSC 方式のテレビをご使用の場合に選択します。日本国内の映像信号方式は NTSC です。PAL 方式で収録されたディスクは NTSC に変換されて出力されます。

**「マルチ」**－ マルチシステムテレビ（PAL/NTSC 両システムに対応）をご使用の場合に選択します。ディスクに収録されたとおりの信号を出力します。

⑤ ENTER（エンター）（決定）キーを押します。

テレビ設定を変更する前に、ご使用のテレビがそのシステムに対応しているかご確認ください。

ご使用のテレビと選択されたフォーマットに互換性がない場合は画像が乱れますが、15 秒程度で自動的に回復します。

**リモコンを使って映像出力タイプを設定する場合**

① EJECT（イジェクト）（取り出し）（⏏）キーを押してディスクを取り出します。

② ▷キーを押して、続いて AUDIO（オーディオ）（音声）キーを押します。

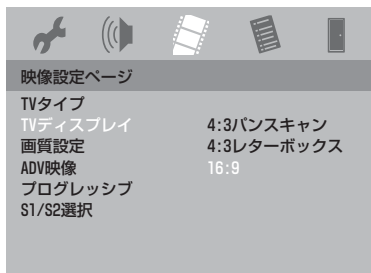
→ 初期設定の NTSC から PAL へ切り替わります。

### テレビ画面を設定する

DVD レシーバーに接続しているテレビに合わせて、設定を変更します。再生するディスクが、選択したフォーマットに対応していない場合、TV ディスプレイの設定は反映されません。

① DVD/CD モードに設定してから、SET UP キーを押します。

② ◁ / ▷ キーを押して「映像設定ページ」を選択します。

③ △ / ▽ キーを押して「TV ディスプレイ」を選択し、▷ キーで決定します。

④ △ / ▽ キーを押して「4:3 パンスキャン」、「4:3 レターボックス」、「16:9」のいずれかを選択します。

**「4:3 パンスキャン」** – ワイドではないテレビをご使用の場合に選択してください。ワイドの映像を再生すると、縦は画面いっぱいに、横は左右がカットされた状態で見えます。

**「4:3 レターボックス」** – ワイドではないテレビをご使用の場合に選択してください。ワイドの映像を再生すると、画面の上下に帯が入った状態で見えます。

**「16:9」** – ワイドテレビをご使用の場合に選択してください。

⑤ ENTER（決定）キーを押します。

## ■ 言語を設定する

お好みの言語を設定します。ディスクを再生する際、ここで選択した言語が自動的に適用されます。再生するディスクに、選択した言語が収録されていない場合、ディスクの初期設定の言語が代わりに適用されます。ただし、OSD 言語（オンスクリーンメニュー）には、選択した言語が適用されます。

**ご注意**

– 設定中に前のメニューに戻るには、◁ キーを押してください。
– メニュー画面を閉じるには、SET UP キーを押してください。
– 設定が適切でないときは、すべての設定をデフォルトに戻すことができます（「デフォルト」41 ページ）。

### オンスクリーンメニュー（OSD）を使用する

① DVD/CD モードに設定してから、SET UP キーを押します。

② ◁ / ▷ キーを押して「一般設定ページ」を選択します。

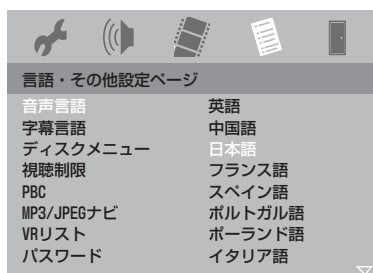
③ △ / ▽ キーを押して「OSD 言語」を選択し、▷ キーを押します。

④ △ / ▽ キーで、お好みの言語を選択し、ENTER（決定）キーを押します。

### 音声、字幕、ディスクメニュー言語を設定する

① リモコンの□キーを2回押して再生を停止してから、SET UP キーを押します。

② ◁ / ▷ キーを押して「言語・その他設定ページ」を選択し、メニューページに入ります。

③ △ / ▽ キーを押して「音声言語」、「字幕言語」、「ディスクメニュー言語」のいずれかを選択します。

④ △ / ▽ キーでお好みの言語を選択し、ENTER（決定）キーを押します。

メニュー内の言語以外を選択したい場合、「その他」を選んでから数字キーで４桁の言語コードを入力し、ENTER（決定）キーを押します。言語コードについては「言語コード一覧」(53ページ）をご参照ください。

⑤ 手順③～④を繰り返し実行して、他の項目を設定します。

## ■ スピーカーの設定を調節する

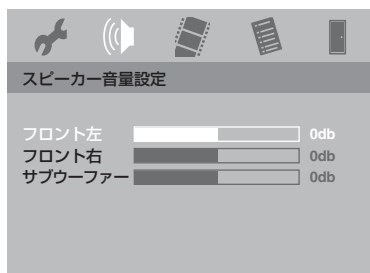
各スピーカーの音量レベルを調節することができます。この設定を調節することで、最適な視聴空間をつくりだすことができます。

**ご注意**

– 設定中に前のメニューに戻るには、◁キーを押してください。
– メニュー画面を閉じるには、SET UP キーを押してください。
– 設定が適切でないときは、すべての設定をデフォルトに戻すことができます（「デフォルト」41 ページ)。

① ◁ / ▷ キーを押して「オーディオ設定ページ」を選択し、メニューページに入ります。

② △ / ▽ キーで「スピーカー」を選択し、▷ キーを押します。

③ ◁ / ▷ キーを押して、最適な距離を設定します。
各スピーカーの音量レベル ( -6dB ～ +6dB ) を調節することができます。

④ ENTER（決定）キーを押します。

**ご注意**

自動的にテストトーンが出ます。それを参考に、各スピーカーの設定を調節してください。

# ディスク操作



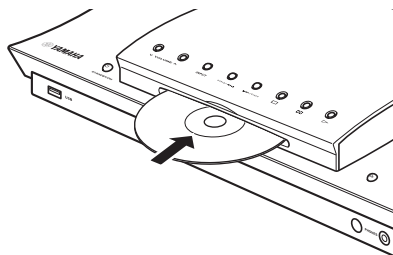
**ご注意**

- ディスクを再生中にキーを押した際、テレビ画面に禁止マーク（⃠または×）が表示された場合、その機能は利用できません。
- ディスクによって、操作方法や操作内容が異なる場合があります。
- ディスク以外のものをディスク挿入口に入れないでください。故障の原因となることがあります。

## ■ 再生する

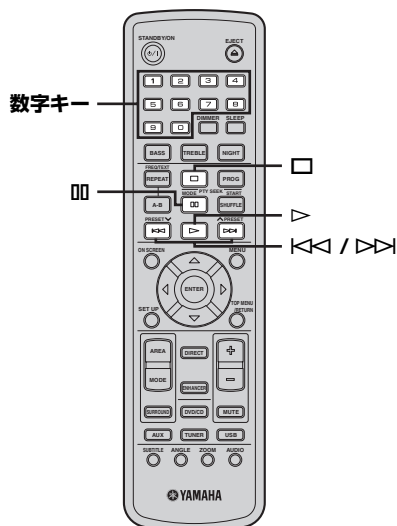
① リモコンの DVD/CD キーを押します。ディスプレイに「DVD CD」と表示されます。

② テレビの映像入力切替を操作して DVD レシーバーの映像に切り替えます。詳しくは「テレビを接続する」（15 ページ）をご参照ください。

③ ディスクをディスク挿入口に挿入します。

④ 自動的に再生が始まります。

テレビ画面にディスクメニューが表示された場合は、「ディスクメニューの操作」（27 ページ）をご参照ください。

視聴制限機能により再生を制限されている場合は、6 桁のパスワードを入力する必要があります。詳しくは「視聴制限」（39 ページ）をご参照ください。

## ■ よく使う機能

**再生の一時停止**

ディスクを再生中に、⏸ キーを押します。

→ 再生が一時停止され、音が消えます。▷ キーを押すと、通常の再生に戻ります。

**スキップ（頭出し）**

⏮ キーを押すと、再生中のチャプター / トラックの先頭にスキップします。

⏭ キーを押すと、次のチャプター / トラックの先頭にスキップします。

数字キーでチャプター / トラックの番号を入力すると、そのチャプター / トラックにスキップします。

リピート（繰り返し）機能が作動中の場合、⏮ キー / ⏭ キーを押すと同じチャプター/トラックが繰り返し再生されます。

**早送り / 早戻し**

⏭ キー（または ▷ キー）を押し続けると、早送りになります。⏮ キー（または ◁ キー）を押し続けると、早戻しになります。

キーを繰り返し押すと、早送り／早戻しのスピードが変わります。

▷ キーを押すと、通常の再生に戻ります。

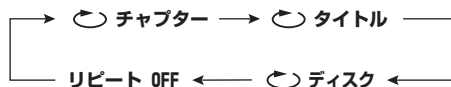
**再生の停止**

再生中に □ キーを押して、再生を停止します。

# ■ リピート（繰り返し）

## リピート（繰り返し）再生

### チャプター / タイトル / ディスクのリピート再生（DVD ビデオ）

REPEAT キーを押すたびに、テレビ画面の表示が次のように変わります。

チャプター *：再生中のチャプターを繰り返し再生します。

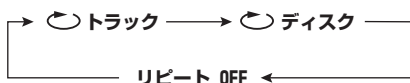
タイトル *：再生中のタイトルを繰り返し再生します。

ディスク *：ディスク全体を繰り返し再生します。

リピート OFF：通常再生に戻ります。

*DVD ビデオによっては正しく機能しない場合があります。

### トラック / ディスクのリピート再生（DVD ビデオ以外のディスクの場合）

REPEAT キーを押すたびにテレビ画面の表示が次のように変わります。

トラック：再生中のトラックを繰り返し再生します。

ディスク：ディスク全体を繰り返し再生します。

リピート OFF：通常再生に戻ります。

**ご注意**

ビデオ CD でプレイバックコントロール（PBC）を使用している際は、リピート再生が機能しない場合があります。

## A-B リピート

① ディスク再生中、リピートを開始したい位置で A-B キーを押します。

② リピートを終了したい位置で A-B キーを押します。

→ A-B リピート再生が始まります。

③ A-B リピートを解除するには、A-B キーを押します。

# ■ シャッフル（VR フォーマット対応ディスクを除く）

ディスク内のタイトル / グループ / アルバムに複数のチャプターまたはトラックがある場合、チャプターまたはトラックを順不同で再生できます。

ディスク再生中に SHUFFLE キーを押して、「シャッフル」、「シャッフルリピート」または「シャッフル OFF」を選択します。

→ 選択モードが数秒間フロントパネルディスプレイに表示されます。

シャッフル：再生中のディスク内にあるすべてのトラックを順不同で再生します。

シャッフルリピート：すべてのトラックを順不同で繰り返し再生します。

## ■ DVD/ ビデオ CD/ スーパービデオ CD の各種機能

### ディスクメニューの操作

ディスクによっては、挿入すると自動的にディスクメニューをテレビ画面に表示する場合もあります。

**再生の機能や再生する項目を選択するには**

◁ / ▷ / △ / ▽ キーまたは数字キーで選択し、ENTER（決定）キーで再生を開始します。

**メニューを呼び出す場合または抜け出すには**

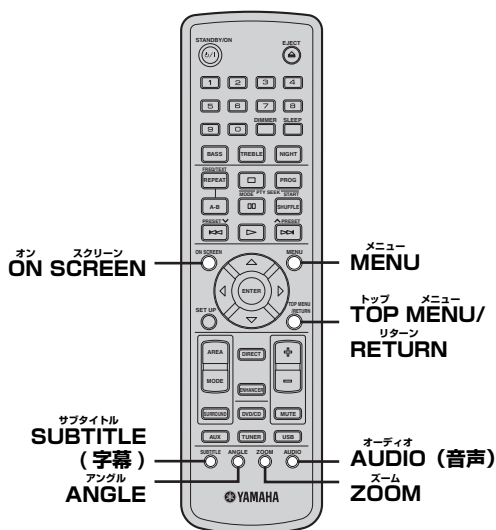
リモコンの MENU キーを押します。

### ディスクメニューの画面表示

再生中にディスク情報を呼び出して、タイトルまたはチャプターの番号、再生経過時間、音声言語、字幕言語などをテレビ画面に表示することができます。

① 再生中に ON SCREEN キーを押します。

→ ディスク情報がテレビ画面に表示されます。

**DVD**

**ビデオ CD/ スーパービデオ CD**

② △ / ▽ キーを押して見たい情報を選択し、ENTER（決定）キーを押して設定に入ります。

③ 数字キーまたは △ / ▽ キーを押して、数字や時間を入力します。数字キーで左から順に、「時間：分：秒」を入力します。（たとえば、「1 時間 5 分 20 秒」は「1:05:20」と入力します。）ENTER（決定）キーを押します。

→ 選択したタイトル、チャプター、またはトラックに再生が切り替わります。

### ズーム

映像を部分的に拡大します。また、拡大画像を再生中または一時停止中にパン（表示箇所を移動）します。

① 再生中または一時停止中に ZOOM キーを押します。◁ / ▷ / △ / ▽ キーで拡大したい部分を移動できます。

→ 再生はそのまま続きます。

② ZOOM キーを繰り返し押して、元のサイズに戻します。

### レジューム機能

停止した位置を記憶して、次回そこから再生を始める機能です。本機はディスク 10 枚分の停止位置を記憶できます。

① ディスク（最近再生した 10 枚のうち 1 枚）を挿入します。

→「LOAD」とディスプレイにメッセージが表示されます。

② メッセージ表示中に ▷ キーを押して、前回の停止位置から再生を開始します。

**レジューム機能を解除するには**

停止した状態でもう一度 □ キーを押すと、レジューム機能が解除されます。

### コマ送り

① 再生中にリモコンの ❙❙ キーを押します。

② 再生を一時停止にしてから、繰り返し ❙❙ キーを押します。（押すたびに少しずつコマ送りされます。）

③ 通常の再生に戻すには、▷ キーを押します。

### 音声言語を選択する

複数の音声言語または音声フォーマットを収録しているディスクを再生中に、音声言語やフォーマットを選択することができます。また、外部デジタル機器から 2 か国語音声を入力している場合、AUDIO キーにより、主音声 / 副音声 / 両方の切替ができます。

AUDIO（音声）キーを繰り返し押して、お好みの音声言語を選択します。

**音声チャンネルを選択する（ビデオ CD のみ）**

AUDIO（音声）キーを繰り返し押して、「ステレオ」、「LEFT-MONO」、「RIGHT-MONO」、「MIX-MONO」のいずれかを選択します。

### プレイバックコントロール（PBC）の操作 ( ビデオ CD のみ )

プレイバックコントロール（PBC）機能のあるビデオ CD では、テレビ画面にメニューを表示させ、見たい場面や情報を選ぶことができます。

① MENU キーを繰り返し押して「PBC ON」または「PBC OFF」を選択します。

→ 「PBC ON」を選択すると、テレビ画面にメニューが表示されます。

→ 「PBC OFF」を選択すると、メニューが表示されずに最初から再生が始まります。

②「PBC ON」を選択した場合、⏮ キー / ⏭ キーまたは数字キーでメニュー項目を選択し、ENTER（決定）キーで決定します。

→ 「PBC ON」が選択されている場合、再生中に TOP MENU/RETURN キーを押すと、メニュー画面が表示されます。

## ■ DVD の各種機能

### 字幕言語を選択する

複数の字幕言語を収録しているディスクを再生中に、お好みの字幕言語を選択することができます。

SUBTITLE（字幕）キーを繰り返し押して、お好みの字幕言語を選択します。

### アングルの選択

同時に複数のアングルから撮影したシーンを収録しているディスクを再生中に、お好みのアングルを選択することができます。

ANGLE キーを繰り返し押します。

### タイトルを選択する

複数のタイトルを収録しているディスクを再生する場合、お好みのタイトルから再生を開始することができます。

① TOP MENU/RETURN キーを押します。

→ ディスクのタイトルメニュー画面が表示されます。

② ◁ / ▷ / △ / ▽ キーまたは数字キーでお好みのタイトルを選択します。

③ ENTER（決定）キーを押します。

# ■ MP3/WMA/DivX/JPEG/コダックピクチャー CD の再生

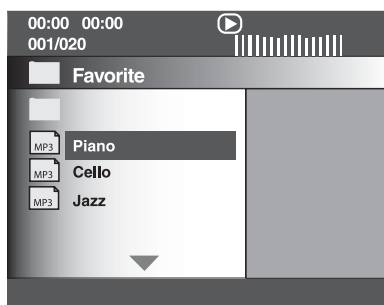
本機は市販の JPEG 画像ディスクおよび CD-R や CD-RW ディスクに保存した JEPG 画像などをテレビ画面に表示することができます。MP3、WMA、DivX、JPEG に対応しています。

**ご注意**

テレビ画面にメニュー画面が表示されていることをご確認ください。詳しくは「テレビ画面を設定する」（23 ページ）をご参照ください。

① ディスクを挿入します。

多くの曲が 1 枚のディスクに編集されているため、読み込み時間が 30 秒を超えることがあります。

→ ディスクメニューがテレビ画面に表示されます。

② △ / ▽ キーでお好みのフォルダーを選択し、ENTER（エンター）（決定）キーで選択したフォルダー内に入ります。

③ △ / ▽ キーでトラックまたはファイルを選択します。

④ ENTER（エンター）（決定）キーを押します。

→ 選択したファイルから再生が始まり、フォルダーの最後まで再生します。

ディスクメニューが表示されている間は、次の操作が可能です。

– ⏮ キー / ⏭ キーを押すと、現在再生中のフォルダー内にある他のトラックまたはファイルを選択することができます。
– ディスク内にある他のフォルダーを選択したい場合は、◁ キーを押してメニュー画面に戻り、△ / ▽ キーでフォルダーを選択し、ENTER（エンター）（決定）キーを押します。
– 再生を一時停止する場合は ⏸ キーを押します。通常再生に戻る場合は ▷ キーを押します。

**ご注意**

– JPEG ディスクを再生中、◁ / ▷ / △ / ▽ キーで画像を回転します。
– 3072 × 2048 以下の JPEG ファイルに対応していますが、画像比率によっては正しく表示されないことがあります。

## MP3 ディスクの機能

**MP3 ディスクフォーマット（ISO9660 フォーマット）は以下に対応しています。**

– ".MP3" または ".mp3" がついた MP3 ファイル
– 最大 30 文字
– 最大 8 レベルのディレクトリー
– 最大 298 のアルバム番号
– 最大 648 のトラック番号
– VBR ビットレートに対応
– 32、44.1、48/16、22.05、24kHz の各サンプリング周波数に対応

**以下の再生はできません。**

– MP3 や JPEG 以外のファイルが収録されたディスク
– 日本語のファイル名、日本語 MP3 テキスト
– ファイナライズされていないディスク
– UDF フォーマットで記録されたディスク

**MP3 ディスクの再生について：**

– 多くの曲が 1 枚のディスクに編集されているため読み込み時間が 10 秒を超えることがあります。
– マルチセッションディスクに対応しています。

**インターネットからの MP3 ファイルのダウンロードや、お持ちの正規のディスクのコピーは、著作権上取り扱いに十分な配慮が必要です。**

## JPEG と MP3 の同時再生

① MP3 ファイルを再生します。

→ テレビ画面にディスクメニューが表示されます。

② MP3 のトラックを選択します。MP3 再生中に画像を選んで ▷ キーを押します。

→ MP3 の音声再生はそのまま続き、画像が順に切り替わります。

③ MENU（メニュー）キーを押すと画像再生が終わり、メニュー画面に戻ります。

④ □ キーを押して MP3 の再生を停止します。

**ご注意**

– ディスクの構成や特性、録音状況などにより、コダックピクチャー CD、JPEG または MP3 などのディスクを正常に再生できないことがあります。
– MP3 ディスクの再生中に音とびが起こることがありますが、これは異常ではありません。
– インターネットからのダウンロードした DivX ファイルの再生の際に、ピクセル化が起こることがありますが、これはコンテンツの解像度の問題で、異常ではありません。
– さまざまなフォーマットで複数のセッションが収録されたディスクを再生する場合、最初のセッションのみが再生されます。

## ■ ピクチャー CD の機能

**ご注意**

テレビ画面にメニュー画面が表示されていることをご確認ください。詳しくは「テレビ画面を設定する」(23 ページ)をご参照ください。

① ピクチャー CD を挿入します。

→ コダックピクチャー CD ディスクを再生する場合、自動的にスライドショーが始まります。

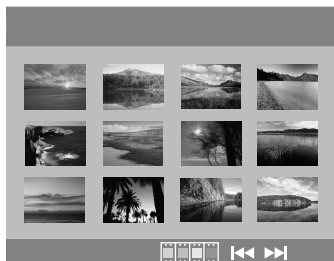
→ JPEG ディスクを再生する場合、テレビ画面にピクチャーメニューが表示されます。

② ⊳ キーを押すと、スライドショーが始まります。

### プレビュー機能(JPEG)

現在再生中のフォルダーまたはディスク全体の内容を表示します。

① 再生中に □ キーを押します。

→ テレビ画面に 12 枚の画像が表示されます。

(表示例)

② 画像が 12 枚以上ある場合、次のプレビュー画面を見るときは ⊳⊳| キーを押し、前のプレビュー画面を見るときは |⊲⊲ キーを押します。

③ ◁ / ▷ / △ / ▽ キーでお好みの画像を選択し、ENTER(エンター)(決定)キーを押して再生を始めます。

④ MENU(メニュー) キーを押すと画像再生が終わり、ディスクメニューに戻ります。

### 画像のズーム

① 再生中に ZOOM(ズーム) キーを押します。

② ◁ / ▷ / △ / ▽ キーで拡大したい部分を移動できます。

### 画像の回転

再生中、◁ / ▷ / △ / ▽ キーで画像を回転できます。

△ :画像を垂直に反転します。

▽ :画像を水平に反転します。

◁ :画像を反時計回りに回転します。

▷ :画像を時計回りに回転します。

### 画像の切り替え効果

ANGLE(アングル) キーを押すたびに、切り替え効果を変更できます。

→ テレビ画面の左上に画像の切り替え効果が表示されます。

## ■ USB 機器について

USB 機器に保存されている MP3、WMA、AAC ファイルを再生できます。

### 対応 USB 機器

本機は FAT12、FAT16、FAT32 方式を利用したフラッシュメモリー、カードリーダー、携帯音楽プレイヤーなどの USB 大容量記憶装置に対応しています。

**ご注意**

- USB 機器によっては正常に作動しない場合があります。
- USB 機器の消費電力が高すぎるため、ご使用になれないことがあります。その場合、TV 画面にそういった内容のメッセージが表示されます。
- 80GB を超える外部ハードディスクには対応していません。
- USB チャージャー、USB ハブ、PC などの USB 大容量記憶装置以外の機器と接続しないでください。

### 再生機能

ヤマハおよび販売店は、本機に接続された USB 機器内のデータの損失については一切補償いたしません。万一に備えて、データのバックアップを行った後に使用されることをおすすめします。

① USB 機器を USB ポートに接続してください。(「USB ポート」20 ページをご参照ください。)

② USB キーを押す。
ファイルやフォルダーの数によっては、読み込み時間が 30 秒を超えることもあります。

→TV 画面にファイルメニューが表示されます。

③「MP3/WMA/DivX/JPEG/ コダックピクチャー CD の再生」の手順に従ってください。29 ページをご参照ください。

**USB モードを解除するには**

入力選択キー（DVD/CD、AUX、TUNER）を押します。

**ご注意**

- USB モードでは、リピート再生はできません。
- TV 画面にローディング中を示すメッセージが表示されているときは、USB モードにアクセスできません。
- コピープロテクトがかかっているファイル（WMA ファイルを除く）は再生できません。
- 最大 648 ファイルまで表示することができますが、再生できないファイルがある場合は 648 ファイル以下の表示になります。
- USB 機器がパーティション管理されている場合は、ひとつめのパーティションのみが表示されます。
- 2GB を超えるファイルは再生できません。

# セットアップメニュー

## メニュー一覧表

| メインメニュー | メニューアイテム | 設定／サブメニュー | 設定／パラメーター | ページ |
|---|---|---|---|---|
| 一般設定ページ | ディスクロック | ロック、**ロック解除** | | 33 |
| | プログラム | **入力メニュー** | | 33 |
| | OSD 言語 | ENGLISH、**日本語** | | 34 |
| | スクリーンセーバー | **ON**、OFF | | 34 |
| | オートスタンバイ | **ON**、OFF | | 34 |
| | DivX（R）VOD コード | （DivX 登録コードの表示） | | 34 |
| オーディオ設定ページ | HDMI 音声出力 | **オート**、PCM、OFF | | 35 |
| | スピーカー設定 | スピーカー音量設定（フロント左） | -6dB ～ +6dB (**0**) | 24 |
| | | （フロント右） | -6dB ～ +6dB (**0**) | 24 |
| | | （サブウーファー） | -6dB ～ +6dB (**0**) | 24 |
| | アップサンプリング | **OFF**、88.2 kHz (X2) | | 35 |
| | リップシンク | ディレイ時間 | **0** ～ 200ms | 35 |
| 映像設定ページ | TV タイプ | PAL、**NTSC**、MULTI | | 36 |
| | TV ディスプレイ | 4:3 パンスキャン、<br>4:3 レターボックス、**16:9** | | 36 |
| | 画質設定 | **標準**、明るい、ソフト | | 36 |
| | | パーソナル　（ブライトネス） | -20 ～ +20 (**0**) | 36 |
| | | （シャープネス） | -7 ～ +7 (**0**) | 36 |
| | | （コントラスト） | -16 ～ +16 (**0**) | 36 |
| | | （色彩） | -9 ～ +9 (**0**) | 37 |
| | | （色の濃さ） | -9 ～ +9 (**0**) | 37 |
| | ADV 映像 | DCDI | OFF、**ON** | 37 |
| | | ガンマ補正 | -7 ～ +7 (**0**) | 37 |
| | | クロマディレイ | -3 ～ +3 (**0**) | 37 |
| | | ワイドスクリーン作成 | ノンリニアストレッチ、<br>4:3 ピラーボックス、**OFF** | 37 |
| | | HDMI 映像 | 480P、576P、720P、<br>1080I、1080P、**オート** | 38 |
| | | TRUE LIFE | **0** ～ +5 | 38 |
| | | DVI レンジ | エンハンス、**標準** | 38 |
| | プログレッシブ | **OFF**、ON | | 38 |
| | S1/S2 選択 | S1、**S2** | | 39 |
| 言語・その他設定ページ | 音声言語 | 英語、**日本語**、フランス語、<br>スペイン語、ポルトガル語、<br>ポーランド語、イタリア語、<br>トルコ語 | | 24 |
| | 字幕言語 | | | 24 |
| | ディスクメニュー | | | 24 |
| | 視聴制限 | レベル 1 ～**レベル 8** | | 39 |
| | PBC | **ON**、OFF | | 40 |
| | MP3/JPEG ナビ | **メニューあり**、メニューなし | | 40 |
| | VR リスト | **オリジナルリスト**、プレイリスト | | 40 |
| | パスワード | 変更 | | 41 |
| | DivX 字幕 | **グループ 1**、グループ 2、<br>グループ 3、グループ 4、<br>グループ 5 | | 41 |
| | デフォルト | リセット | | 41 |

**DVD レシーバーの初期設定をお好みにあわせて変更したり、便利な機能を設定できます。**

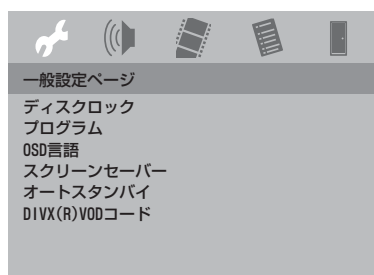
**ご注意**

– 設定中に前のメニューに戻るには、◁キーを押してください。
– メニュー画面を閉じるには、SET UP キーを押してください。
– 設定が適切でないときは、すべての設定をデフォルトに戻すことができます（「デフォルト」41 ページ）。

## ■ 一般設定ページ

① DVD/CD モードに設定し、リモコンの SET UP キーを押します。

② ◁ / ▷ キーで「一般設定ページ」を選択し、メニューページに入ります。

③ ENTER（決定）キーを押します。

### ディスクロックの設定

すべてのディスクに対して、制作者によって視聴制限レベルが設定されているわけではありません。ディスクをロックすることにより、特定のディスクを再生できなくすることが可能です。本機では、最大 40 枚までのディスクをロックすることができます。

①「一般設定ページ」から △ / ▽ キーで「ディスクロック」を選択し、▷ キーで決定します。

**「ロック」**

現在 DVD レシーバーに入っているディスクをロックします。この設定後、ディスクを再生したいときは、6 桁のパスワード入力をして設定を変更してください。パスワード初期値は 000 000 です。詳しくは「パスワードの変更」（41 ページ）をご参照ください。

**「ロック解除」**

現在 DVD レシーバーに入っているディスクのロックを解除します。ロック解除後は、パスワード入力なしで、再生できます。

② △ / ▽ キーで設定し、ENTER（決定）キーを押します。

### プログラム再生

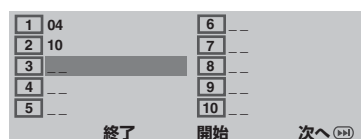
**（オーディオ CD、DVD、ビデオ CD、スーパービデオ CD）**

プログラムを作成すると、トラックやチャプターをお好みの順番で再生することができます。最大 20 トラックまで設定可能です。

① リモコンの PROG キーを押します。

または「一般設定ページ」から △ / ▽ キーで「プログラム」を選択します。▷ キーを押して「入力メニュー」をハイライトします。

② ENTER（決定）キーを押します。

**プログラム：トラック(01-17)**

**プログラムの入力**

③ 数字キーでプログラムしたいトラックまたはチャプター番号を入力します。

④ ◁ / ▷ / △ / ▽ キーで次の位置へカーソルを移動させます。

→ 10 トラック以上プログラムする場合は、⏭ キーで次のページを表示させます。または、◁ / ▷ / △ / ▽ キーでプログラムメニューの「次へ」をハイライトし、ENTER（決定）キーを押します。

⑤ 手順 ③ と ④ を繰り返して、他のトラックまたはチャプター番号を入力します。

**トラックの削除**

① ◁ / ▷ / △ / ▽ キーで削除したいトラックを選択します。

② ENTER（決定）キーを押して、選択したトラックをプログラムメニューから削除します。

③ PROG キーを押してメニュー画面を閉じます。または、◁ / ▷ / △ / ▽ キーで「終了」を選択し、ENTER（決定）キーを押します。

## OSD 言語

On Screen Display（オンスクリーンディスプレイ）すなわちテレビ画面に表示されるセットアップメニューやその他のメニューの言語を変更することができます。詳しくは「音声、字幕、ディスクメニュー言語を設定する」（24 ページ）をご参照ください。

## スクリーンセーバー

スクリーンセーバーのオン / オフを設定します。

① 「一般設定ページ」から △ / ▽ キーで「スクリーンセーバー」を選択します。▷ キーで決定します。

**「ON」**

再生を停止または一時停止した状態で 15 分以上経過したときに、テレビ画面がスクリーンセーバーに変わります。

**「OFF」**

上記の状態でも、スクリーンセーバーになりません。

② △ / ▽ キーで選択し、ENTER（決定）キーを押します。

③ 前のメニューに戻るには、◁ キーを押してください。メニュー画面を閉じるには、SET UP キーを押してください。

## オートスタンバイ機能をオン / オフに設定する

オートスタンバイ機能をオン / オフに設定します。

① 「一般設定ページ」から △ / ▽ キーで「オートスタンバイ」を選択します。▷ キーで決定します。

**「ON」**

ディスク再生を停止した状態で、30 分以上経過したとき、またはディスクメニューを表示したまま、何も操作しない状態が 3 時間以上続いたときに、自動的に DVD レシーバーをスタンバイ状態に切り替えます。

**「OFF」**

オートスタンバイ機能を無効にします。

② △ / ▽ キーで選択し、ENTER（決定）キーを押します。

## DivX® VOD 登録コード

DivX® VOD（ビデオ・オンデマンド）サービスを利用してビデオを賃借または購入するための登録コードを表示します。詳しくは www.divx.com/vod. をご覧ください。
本機で再生するには、コンピューターで CD-R/RW にダウンロードします。

① 「一般設定ページ」から △ / ▽ キーで「DivX（R）VOD コード」を選択し、▷ キーで決定します。

→ 登録コードが表示されます。

② メニュー画面に戻るには、ENTER（決定）キーを押します。

**ご注意**

DivX® VOD からダウンロードしたビデオは本機でのみ再生可能です。

## ■ オーディオ設定ページ

① DVD/CD モードに設定し、SET UP（セット アップ）キーを押します。

② ◁ / ▷ キーで、「オーディオ設定ページ」を選択します。

③ ENTER（エンター）（決定）キーを押します。

### HDMI オーディオ設定

HDMI 端子に接続した HDMI 対応機器に DVD レシーバーを接続すると、接続機器に対応した HDMI 出力端子を設定します。詳しくは「HDMI オーディオ出力」（17 ページ）をご参照ください。

①「オーディオ設定ページ」から △ / ▽ キーで「HDMI 音声出力」を選択し、▷ キーで決定します。

**「オート」**

HDMI 端子に接続した機器に合わせて、DVD レシーバーを自動的に最適な状態に設定します。

**「PCM」**

HDMI 端子経由で、デコードされたマルチチャンネルまたは 2 チャンネルの PCM 信号を出力します。

**「OFF」**

HDMI オーディオ出力を無効にします。

② △ / ▽ キーで項目を選択し、ENTER（エンター）（決定）キーを押します。

**ご注意**

DVD レシーバーに HDMI 接続されたモニター / レシーバーが、HDMI 信号入力に非対応の場合は、「OFF」に設定してください。

### スピーカー設定

高品質な音響効果をつくりだすことができます。

### アップサンプリング

音楽 CD を高いサンプリング周波数に変換し、音質を向上させます。アップサンプリングを有効にすると、DVD レシーバーは自動的にステレオモードに切り替わります。

**ご注意**

アップサンプリングが有効になっているときは、ミュージックエンハンサー、ナイトリスニングの機能は使用できません。

①「オーディオ設定ページ」から △ / ▽ キーで「アップサンプリング」を選択し、▷ キーで決定します。

**「OFF」**

アップサンプリングを無効にします。

**「88.2 kHz (X2)」**

オリジナルの 2 倍のサンプリング周波数に変換します。

② △ / ▽ キーで項目を選択し、ENTER（エンター）（決定）キーを押します。

### リップシンク

リップシンク機能とは、フロントスピーカーから出力される音声とデジタル処理された映像とのずれを調節する機能です。この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。

可変範囲：0 ～ 200ms

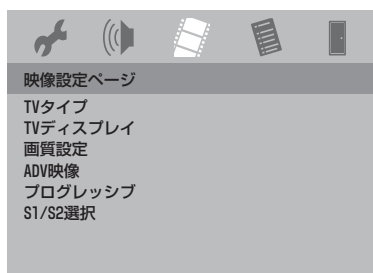
①「オーディオ設定ページ」から △ / ▽ キーで「リップシンク」を選択し、▷ キーで決定します。

② ◁ / ▷キーで「ディレイ時間」(0 ～ 200ms) を設定し、ENTER（エンター）（決定）キーを押します。

## ■ 映像設定ページ

① DVD/CD モードに設定し、SET UP(セットアップ)キーを押します。

② ◁ / ▷ キーで「映像設定ページ」を選択しメニューページに入ります。

③ ENTER(エンター)(決定)キーを押します。

### TV タイプ

DVD レシーバーから出力される映像方式を「PAL」、「NTSC」、「マルチ」から選択できます。詳しくは「テレビの映像出力タイプを設定する」(22 ページ)をご参照ください。

**ご注意**

「プログレッシブ」(38 ページ)が「オン」に設定されている場合、ディスクの記録方式によって、コンポジットビデオ出力 /S ビデオ出力が異なります。

| ディスクの記録方式 | TV タイプ | 出力形式 | |
|---|---|---|---|
| | | コンポーネントビデオ出力 | コンポジットビデオ出力 /S ビデオ出力 |
| NTSC | PAL | 576p | 480i |
| | NTSC | 480p | 480i |
| | MULTI | 480p | 480i |
| PAL | PAL | 576p | 575i |
| | NTSC | 480p | 575i |
| | MULTI | 576p | 575i |

### テレビ画面の設定

DVD レシーバーに接続しているテレビのサイズに応じて、「4：3 パンスキャン」、「4：3 レターボックス」、「16：9」のいずれかを設定します。詳しくは「テレビ画面を設定する」(23 ページ)をご参照ください。

### 画質設定

色調を自分の好みや再生ソースに合わせて調整できます。

①「映像設定ページ」から △ / ▽ キーで「画質設定」を選択し、▷ キーで決定します。

**「標準」**

標準的な画質になります。

**「明るい」**

画像がより明るく映し出されます。

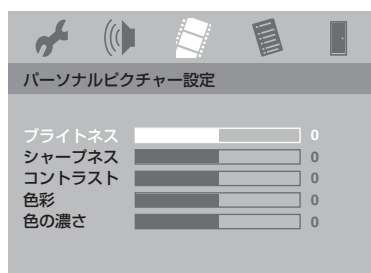
**「ソフト」**

画像がより柔らかく映し出されます。

**「パーソナル」**

ブライトネス、シャープネス、コントラスト、色彩、色の濃さの画質調整ができます。

② △ / ▽ キーで項目を選択し、ENTER(エンター)(決定)キーで決定します。

③「パーソナル」を選択すると、テレビ画面にメニューが表示されます。

④ △ / ▽ キーを押して、次のメニューから変更したい項目を選択します。

**「ブライトネス」**

◁ / ▷ キーで、画像全体の明るさを調整できます。「0」が平均的な明るさです。-20 から +20 まで数値を調節できます。

**「シャープネス」**

◁ / ▷ キーで、画像輪郭を調整できます。

「0」が平均的な鮮明さです。-7 から +7 まで数値を調節できます。

**「コントラスト」**

◁ / ▷ キーで、明暗の強弱を調整できます。
「0」が平均的なコントラストです。-16 から +16 まで数値を調節できます。

**「色彩」**

◁ / ▷ キーで、色合いを調整できます。「0」が平均的な色彩です。-9 から +9 まで数値を調節できます。

**「色の濃さ」**

◁ / ▷ キーで、色のレベルを調整できます。「0」が平均的なカラーです。-9 から +9 まで数値を調節できます。

⑤ ◁ / ▷ キーを使用して、設定値を調節します。

⑥ 手順④と⑤を繰り返し、他の画質設定の項目を調節します。

⑦ ENTER（決定）キーを押します。

**ご注意**

HDMI 出力時には、すべての画質設定が無効になります。

## 高度な画質設定

以下のビデオパラメーターを設定できます。ご使用のテレビに画像比率を設定することをおすすめします。

**[DCDI]**

画面上のちらつきやジャギーノイズ（輪郭のぎざぎざ）を画素単位で補正します。特にスローモーション再生の際、画質が最適化され、効果的です。この機能はプログレッシブスキャン出力時にのみ有効です。

① 「映像設定ページ」で「ADV 映像」を選択します。

② △ / ▽ キーで「DCDI」を選択し、▷ キーで決定します。

**「OFF」**

DCDi 機能を無効にします。

**「ON」**

DCDi 機能を有効にします。

③ △ / ▽ キーで項目を選択し、ENTER（決定）キーを押します。

**[ ガンマ補正 ]**

暗い画像や明るい画像を見やすく調節できます。プラスにすると画面の暗い部分が強調され、マイナスにするとコントラストが強調されます。この機能は HDMI 出力時には、使用できません。

-7 から +7 まで数値を調節できます。

① 「映像設定ページ」で「ADV 映像」を選択します。

② △ / ▽ キーで「ガンマ補正」を選択し、▷ キーで決定します。

③ ◁ / ▷ キーで項目を選択し、ENTER（決定）キーを押します。

**[ クロマディレイ ]**

彩度信号と明暗信号は同時に伝送できません。彩度信号の出力遅延時間を調整し、鮮明な映像を映し出すことができます。この機能は HDMI 出力時には、使用できません。

-3 から +3 まで数値を調節できます。

① 「映像設定ページ」で「ADV 映像」を選択します。

② △ / ▽ キーで「クロマディレイ」を選択し、▷ キーで決定します。

③ ◁ / ▷ キーで項目を選択し、ENTER（決定）キーを押します。

**[ ワイドスクリーン作成 ]**

画像比率を設定します。この機能はプログレッシブスキャンと HDMI 出力時にのみ使用できます。

① 「映像設定ページ」で「ADV 映像」を選択します。

② △ / ▽ キーで「ワイドスクリーン作成」を選択し、▷ キーで決定します。

**「ノンリニアストレッチ」**

非線形伸縮（画面の中心部がサイドに比べて伸縮されないこと）で、16:9 の画面上に 4:3 の映像を表示します。

**「4:3 ピラーボックス」**

伸縮せずに、16:9 の画面上に 4:3 の映像を表示します。

**「OFF」**

画像比率を調節することができません。

③ △ / ▽ キーで項目を選択し、ENTER（決定）キーを押します。

**[HDMI 映像 ]**

ご使用のモニターに合わせて、解像度を設定します。この機能は HDMI 端子経由で HDMI 対応機器に DVD レシーバーを接続している場合のみ、使用できます。

① 「映像設定ページ」で「ADV 映像」を選択します。

② △ / ▽キーで「HDMI 映像」を選択し、▷キーで決定します。

**「480P」**

480 プログレッシブスキャンビデオ

**「576P」**

576 プログレッシブスキャンビデオ

**「720P」**

720 プログレッシブスキャンビデオ

**「1080I」**

1080 インタレースビデオ

**「1080P」**

1080 プログレッシブスキャンビデオ

**「オート」**

ご使用の機器に合わせた解像度が自動的に選択されます。

③ △ / ▽ キーで項目を選択し、ENTER（エンター）（決定）キーを押します。

**ご注意**

「オート」以外の設定で、解像度設定がご使用の HDMI 機器に対応していない場合、HDMI ビデオ信号は適切に出力されません。下記の手順で「HDMI 映像」を「480P」に変更します。

– ディスクがセットされている場合、⏏ キーを押しディスクを取り出します。
– ◁ キーを押します。
– AUDIO（オーディオ）（音声）キーを押します。

ディスク再生中は、上記の操作を行わないでください。

**[TRUE LIFE]**

画像の濃度を調節します。プラスにすると、画像情報を詳細に再現します。

この機能はプログレッシブスキャン（コンポーネントビデオ出力端子を使用）と HDMI 出力にのみ使用できます。0 から 5 まで数値を調節できます。

① 「映像設定ページ」で「ADV 映像」を選択します。

② △ / ▽ キーで「TRUE LIFE」を選択し、▷ キーで決定します。

③ ◁ / ▷ キーで項目を選択し、ENTER（エンター）（決定）キーを押します。

**[DVI レンジ ]**

接続機器に合わせて、DVI 出力範囲を設定します。HDMI 端子経由で DVI-D 対応機器に DVD レシーバーを接続している場合のみ、使用できます。

① 「映像設定ページ」で「ADV 映像」を選択します。

② △ / ▽ キーで「DVI レンジ」を選択し、▷ キーで決定します。

**「エンハンス」**

画像の白黒部分が明瞭でない場合に選択します。

**「標準」**

「エンハンス」を選択しても、画像が正常に表示されない場合に選択します。

③ △ / ▽ キーで項目を選択し、ENTER（エンター）（決定）キーを押します。

## プログレッシブ機能

DVD レシーバーの D1/D2 モニター出力端子 / コンポーネントビデオ出力端子は、プログレッシブ信号を出力できます。プログレッシブ対応のテレビで再生することで、高密度でちらつきの少ない高品質な画像が楽しめます。

**ご注意**

– テレビ側もプログレッシブ対応しているかご確認ください。テレビの操作方法については、ご使用のテレビに付属している取扱説明書をご参照ください。
– DVD レシーバーの D1/D2 モニター出力端子またはコンポーネントビデオ出力端子が、プログレッシブ対応テレビの映像入力端子に接続されている必要があります。

① 「映像設定ページ」から △ / ▽ キーで「プログレッシブ」を選択し、▷ キーで決定します。

**「OFF」**

プログレッシブ出力しません。

**「ON」**

プログレッシブ出力します。

② △ / ▽ キーで項目を選択し、ENTER（決定）キーを押します。

→ テレビ画面に設定を確認する表示が出た場合は、表示ガイドにしたがって設定を行ってください。

→ ご使用のテレビが選択されたフォーマットと互換性がない場合は画像が乱れますが、15 秒程度で自動的に回復します。

**リモコンを使ってプログレッシブ出力をオフにする場合**

① EJECT（取り出し）( ⏏ ) キーを押してディスクを取り出します。

② ◁キーを押して、続いて ANGLE キーを押します。

## S1/S2 選択

ワイドテレビ対応の信号を追加した S1 端子 / S2 端子を持つ機器（テレビなど）と接続する場合に設定します。

①「映像設定ページ」から △ / ▽ キーで「S1/S2 選択」を選択し、▷ キーで決定します。

**「S1」**

S1 端子（4:3 映像と 16:9 映像の判別が可能）と接続する場合に選択します。

**「S2」**

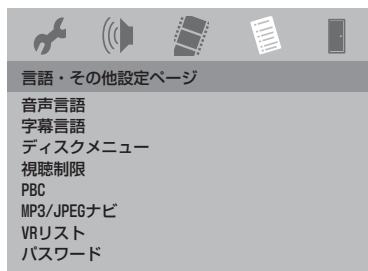
S2 端子（4:3 映像と 16:9 映像に加えて、16:9 映像の上下に帯を付加して 4:3 にしたレターボックス信号の識別が可能）と接続する場合に選択します。

② △ / ▽ キーで項目を選択し、ENTER（決定）キーを押します。

## ■ 言語・その他設定ページ

① リモコンの □ キーを 2 回押して再生を停止し、SET UP キーを押します。

② ◁ / ▷ キーで「言語・その他設定ページ」を選択します。

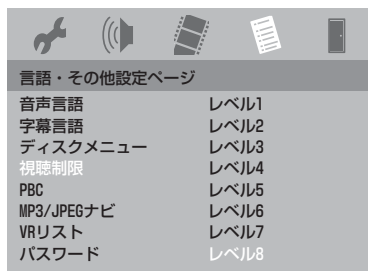
③ ENTER（決定）キーを押します。

### 音声、字幕、ディスクメニュー言語

音声言語、字幕言語、ディスクメニュー言語をそれぞれ設定することができます。詳しくは「音声、字幕、ディスクメニュー言語を設定する」（24 ページ）をご参照ください。

### 視聴制限

視聴制限レベルの設けてある DVD（ディスクのジャケットなどに表示があります）では、お子様が視聴するのに適さないシーンがある場合、ディスク全体または特定のシーンに視聴制限をかけることができます。8 段階のレベル設定がありますが、国によって制限レベルが異なります。

「視聴制限」を選択すると、以下のメニューが表示されます。

①「言語・その他設置ページ」から △ / ▽ キーで「視聴制限」を選択し、▷ キーで決定します。

② △ / ▽ キーで、DVD レシーバーにセットされているディスクの視聴制限レベルを設定し、ENTER（決定）キーを押します。

③ 数字キーを使って、6 桁のパスワードを入力します。初期設定では「000 000」がパスワードに設定されています。必要に応じて「パスワードの変更」（41 ページ）をご参照ください。

→ 視聴制限レベルを設定すると、それより高い視聴制限レベルに指定されているディスクをDVD レシーバーで再生できなくなります。ロックしたディスクを再生するには、パスワード入力が必要になります。

**視聴制限レベルについて**

数値が小さいほど視聴制限は厳しくなります。たとえば、レベル 3（PG）に設定した状態でレベル 4（PG13）のディスクを再生しようとするとパスワードの入力画面になります。シーンごとにレベル設定されているディスクならば、そのシーンをとばすか、代替シーンが収録されている場合は、それを再生することもできます。

**ご注意**

– ビデオ CD、スーパービデオ CD、CD や海賊版 DVD などに視聴制限をかけることはできません。
– ディスクのジャケットに表示がある場合でも、レベルがコード化されていないために、視聴制限機能が効かないことがあります。

## PBC（プレイバックコントロール）

プレイバック再生を「ON」または「OFF」にできます。この機能はビデオ CD2.0 にのみ有効です。詳しくは「プレイバックコントロール (PBC) の操作 ( ビデオ CD のみ )」（28 ページ）をご参照ください。

## MP3/JPEG ナビ

MP3 や JPEG 画像を再生するときに、再生方法の操作画面を表示するかしないかを設定します。

①「言語・その他設定ページ」から △ / ▽ キーで「MP3/JPEG ナビ」を選択し、▷ キーで決定します。

**「メニューあり」**

操作画面を表示し、お好みのファイルを選んで再生します。

**「メニューなし」**

操作画面を表示せず、すべてのファイルを自動的に再生します。

② △ / ▽ キーで設定し、ENTER（決定）キーを押します。

## VR フォーマットの再生

VR（ビデオレコーディング）フォーマットには、ディスクに実際に記録される「オリジナルリスト」とオリジナルを元に編集して作成される「プレイリスト」という 2 種類のタイトルがあります。この設定は、VR フォーマットに対応していないディスクでは選択できません。

①「言語・その他設定ページ」から △ / ▽ キーで「VR リスト」を選択し、▷ キーで決定します。「オリジナルリスト」または「プレイリスト」を選択します。

**「オリジナルリスト」**

実際に記録されているタイトルを再生します。

**「プレイリスト」**

オリジナルを元に編集して作成されたタイトルを再生します。プレイリストが作成されていない場合は選択できません。

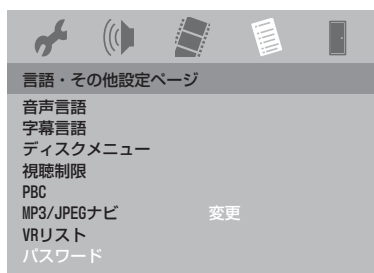
② △ / ▽ キーで選択し、ENTER（決定）キーを押します。

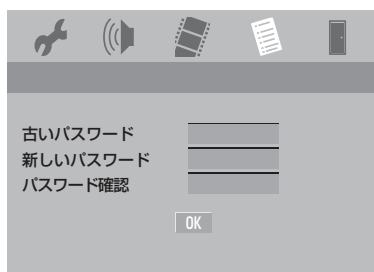
③ SET UP キーを押してセットアップメニューを閉じます。

④ ▷ キーを押すと、選択されたタイトルが再生されます。

## パスワードの変更

「ディスクロック」と「視聴制限」で使用する 6 桁のパスワードを設定します。工場出荷時のパスワードは「000 000」です。

① 「言語・その他設定ページ」から △ / ▽ キーで「パスワード」を選択し、▷ キーを押して「変更」を選択します。

② ENTER（決定）キーを押します。

→ パスワード変更メニューが表示されます。

③ 数字キーで現在の（古い）パスワードを入力します。

→ はじめてパスワードを設定するときは、「000 000」を入力します。

→ パスワードを忘れてしまったときは、「000 000」を入力します。

④ 新しいパスワードを入力します。

⑤ もう一度新しいパスワードを入力します。

⑥ ENTER（決定）キーを押します。

→ 新しいパスワードの登録完了です。

## DivX 文字コードの選択

DivX® VOD（ビデオ・オンデマンド）サービスを利用してダウンロードしたビデオに字幕がある場合、字幕言語の文字コードを選択することができます。

① 「言語・その他設定ページ」から △ / ▽ キーで「DivX 字幕」を選択します。▷ キーを押して「グループ 1」を選択します。

② ENTER（決定）キーを押します。

**ご注意**

- ディスクの種類や記録環境によっては、再生できないことがあります。
- 外部字幕ファイルが正しく表示されない、もしくはまったく表示されないことがあります。
- .srt、.sub、.ssa、.smi という拡張子の外部字幕ファイルに対応しています。
  (これらのファイルはディスクメニューに表示されません。)
- 外部字幕ファイルをご使用の際は、ファイル名の先頭に動画ファイルのファイル名を入力してください。
- 同じ動画ファイルで最大 10 種類の外部字幕ファイルに切り替えることができます。

## デフォルト

セットアップメニューの設定を工場出荷時の初期設定値に戻すことができます。

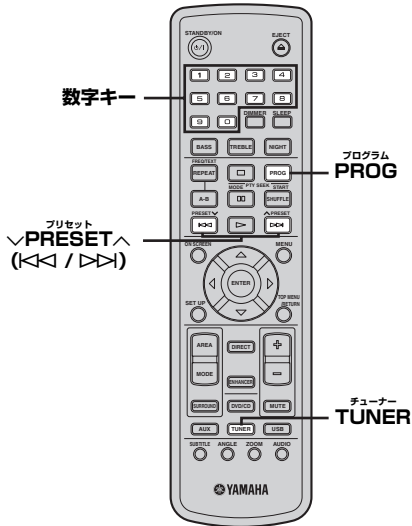
① 「言語・その他設定ページ」から △ / ▽ キーで「デフォルト」を選択します。▷ キーを押して「リセット」を選択します。

② ENTER（決定）キーを押します。

→ 視聴制限、ディスクロック、パスワード以外のすべての設定が、工場出荷時の初期設定値になります。

# チューナーの操作

**ご注意**

DVD レシーバーに FM アンテナと AM アンテナが接続されていることをご確認ください。

## ■ 放送局を選局する

① リモコンの TUNER（チューナー）キーを押します。ディスプレイに「TUNER/FM」（FM 放送）または「TUNER/AM」（AM 放送）と表示されます。どちらかを選択します。

② △ / ▽ キーを押します。

→ ディスプレイに「SEARCH」と表示されます。

→ 次の放送局が自動的に選択されます。

③ 手順 ② を繰り返して、お好みの放送局を選択します。

④ 電波の弱い放送局を選択する場合、◁ / ▷ キーを数回押して周波数を調節しながら選局します。

## ■ 放送局を登録する（プリセット）

本機には、お好みの放送局（FM 放送、AM 放送合計 30 局）を登録することができるプリセット機能があります。

**ご注意**

– プリセット設定中 20 秒経過しても操作が行われない場合、自動的にプリセットから抜け出します。

### 放送局を自動登録する（自動プリセット）

最初に選局される放送局のプリセット番号を指定して、自動登録を開始することができます。

① リモコンの TUNER（チューナー）キーを押します。ディスプレイに「TUNER/FM」または「TUNER/AM」と表示されます。

② ⏮ / ⏭ キーまたは数字キーを使ってプリセット番号を入力します。

③ リモコンの PROG（プログラム）キーを数秒間押すと「AUTO」とディスプレイに表示されます。

→ プリセット番号の入力がない場合、プリセット番号 1 から順に自動登録を開始します。すでに放送局が登録されている番号に新しい放送局を登録すると、以前登録されていた放送局は消去され、新しい放送局が登録されます。

### 放送局を手動登録する（手動プリセット）

お好みの放送局を選んで登録することができます。

① 登録したい放送局を選局します。詳しくは「放送局を選局する」（42 ページ）をご参照ください。

② リモコンの PROG（プログラム）キーを押します。

③ ⏮ / ⏭ キーでプリセット番号を選択します。

④ PROG（プログラム）キーをもう一度押して登録します。

## ■ 登録した放送局を選局する（プリセット選局）

⏮ / ⏭ キーまたは数字キーで、聴きたい放送局のプリセット番号を入力します。

→ ディスプレイにプリセット番号、ラジオ周波数の順に表示されます。

---

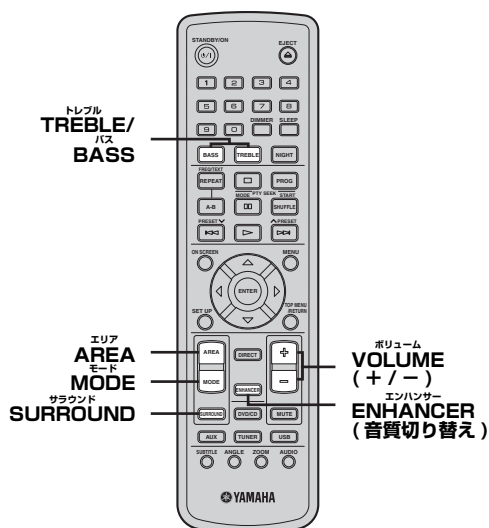
### プリセットを解除する

本機の □ キーを「Preset Deleted」と表示されるまで長押しします。

→ 現在選局している放送局の登録が解除されます。

# サウンドの調節

**ご注意**

高品質な音響効果をつくりだすには、DVD レシーバーとスピーカーが正しく接続されているかご確認ください。詳しくは「スピーカーを接続する」（12 ページ）をご参照ください。

## ■ バーチャルサラウンド

### バーチャルサラウンド機能をオン / オフに設定する

2.1 チャンネル音声を 5.1 チャンネルの仮想サラウンド音声に切り替えることができます。

・ リモコンの SURROUND（サラウンド） キーを押します。

→ ディスプレイに「SURR ON」と表示されます。

**バーチャルサラウンド機能を解除するには**

再度 SURROUND（サラウンド） キーを押します。

→ ディスプレイに「SURR OFF」と表示されます。

### バーチャルサラウンドの範囲を切り替える

バーチャルサラウンドの範囲を切り替えることができます。

バーチャルサラウンド機能が作動している際に、リモコンの AREA（エリア） キーを押します。

**「NARROW」**

音場が比較的鮮明になります。最適な視聴空間は比較的狭くなります。

**「WIDE」**

音場が比較的不鮮明になりますが、最適な視聴空間が広くなります。

### バーチャルサラウンドのモードを切り替える

バーチャルサラウンドのモードの設定を切り替えることができます。

バーチャルサラウンドのモードが作動している際に、リモコンの MODE（モード） キーを押します。

**「MUSIC」**

音楽モードにします。

**「MOVIE」**

映像モードにします。

### 音響バランスを調節する

視聴位置に合わせて、音響バランスを調節します。

① バーチャルサラウンド機能が作動している際に、リモコンの SURROUND（サラウンド） キーを長押しします。
→ ディスプレイに「POS CENT」と表示されます。

② ３秒以内に VOLUME（ボリューム）（＋ / －）キーを押すと、音響バランス（POS L6, POS L5, POS L4, POS L3, POS L2, POS L1, POS CENT, POS R1, POS R2, POS R3, POS R4, POS R5, POS R6）を調節できます。
→ 3 秒以内に操作が行われない場合、通常の音量調節機能に戻ります。

**ご注意**

DVD レシーバーの電源を切ると、選択した音響バランスが自動的に「POS CENT」に戻ります。

## ■ ミュージックエンハンサー

音の厚みや迫力、華やかさやグルーブ感を蘇らせて、より良い音質を作り出します。リモコンのENHANCER（音質切り替え）キーを押します。

→ ディスプレイに「ENH ON」と表示されます。

**エンハンサー機能を解除するには**

再度 ENHANCER（音質切り替え）キーを押します。

→ ディスプレイに「ENH OFF」と表示されます。

**ご注意**

– ナイトリスニングとミュージックエンハンサーは、同時に使用できません。
– アップサンプリングが有効になっているときや、96kHz のサンプリングレートで収録されたディスクを再生しているときは、ミュージックエンハンサーの機能は使用できません。

## ■ ナイトリスニング

ナイトリスリングを設定すると、大きな効果音を抑えて会話やヴォーカル音声などをはっきりと聞こえるように再生し、かすかな音は聴き取ることができる程度に大きく再生されます。夜間にアクション映画などを視聴するときに便利です。

リモコンの NIGHT キーを押します。

→ ナイトリスリングが作動すると、ディスプレイに「NIGHT ON」と表示されます。

**ナイトリスニングを解除するには**

再度 NIGHT キーを押します。

→ ディスプレイに「NIGHT OFF」と表示されます。

**ご注意**

– ナイトリスニングとミュージックエンハンサーは、同時に使用できません。
– アップサンプリングが有効になっているときや、96kHz のサンプリングレートで収録されたディスクを再生しているときは、ナイトリスニングの機能は使用できません。

## ■ 高音と低音レベルを調節する

TREBLE( 高音域 ) と BASS（低音域）のレベルを調節することによって、さらにリアルなサラウンドサウンドをお楽しみいただけます。

① リモコンの TREBLE キーまたは BASS キーを押します。

② 3 秒以内にリモコンの VOLUME（+ / –）キーで、高音域と低音域のレベル ( -6dB から +6dB まで 1dB 単位で調節可能 ) を調節します。

**ご注意**

3 秒以内に操作が行われない場合、操作はキャンセルされ通常の音量設定に戻ります。

## ■ 音量を調節する

音量を上げるにはリモコンの VOLUME +キー、下げるには VOLUME –キーを押します。

→ 音量を最小にすると「VOL MIN」とディスプレイに表示されます。音量を最大にすると「VOL MAX」と表示されます。

**一時的に消音にするには**

リモコンの MUTE キーを押します。

→ 消音になっている状態で再生は続きます。

**消音を解除するには**

再度 MUTE キーを押します。

# その他の操作

## ■ スタンバイ状態に切り替える

DVD レシーバーまたはリモコンの STANDBY/ON（⏻/I）キーを押します。

→ スタンバイ（待機）中は、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量の電力を消費します。

## ■ フロントパネルディスプレイの明るさ調節

リモコンの DIMMER（明るさ）キーを押して、DVD レシーバーのディスプレイをお好みの明るさに調節します。

DIM 1：70%の明るさにします。

DIM 2：40%の明るさにします。

DIM OFF：通常の明るさに設定します。

## ■ スリープタイマーの設定

スリープタイマーを設定すると、設定した時間の経過後、本機の電源を自動的にスタンバイ状態に切り替えることができます。

① リモコンの SLEEP キーを押して、ディスプレイに「SLEEP XX」を表示させます。
（XX は、スリープタイマーを設定する時間を分単位で表します。例：15、30、45、60、OFF）

② リモコンの SLEEP キーを繰り返し押すと、順に 15、30、45、60、OFF とディスプレイの設定時間が変わります。お好みの設定時間を選択します。

→ ディスプレイに「SLEEP」と表示されます。ただし「SLEEP OFF」を選択した場合は表示されません。

→ DVD レシーバーがスタンバイ（待機）に切り替わる 10 秒前から、ディスプレイにカウントダウンが表示されます。

「SLEEP 10」→「SLEEP 9」.... →

「SLEEP 2」→「SLEEP 1」

**スリープタイマーを解除するには**

リモコンの SLEEP キーを繰り返し押して、「SLEEP OFF」を選択します。

## ■ 外部 AV 機器で録画 / 録音する

① 外部レコーダーを DVD レシーバーに接続すると、DVD レシーバーで再生している映像や音声を外部レコーダーで録画したり、録音することができます。外部レコーダーの接続方法については、「その他の AV 機器を接続する」（19 ページ）をご参照ください。

② リモコンの入力選択キー（DVD/CD、TUNER、AUX、または USB）を押して入力を選択し、録音するソースの再生を準備します。

③ 外部 AV 機器の録音を開始します。

**ご注意**

外部レコーダーの機能については、ご使用の機器に付属している取扱説明書をご参照ください。

# 故障かな？と思ったら

使用中に正常に作動しなくなった場合は、まず下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や下記の対処を行っても正常に作動しない場合は、電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点までお問い合わせください。

| 症状 | 解決方法 |
|---|---|
| **電源が入らない** | 電源プラグがしっかりと差し込んであるかご確認ください。 |
| | DVD レシーバーの STANDBY/ON キーを押して電源を入れてください。 |
| **映像が出ない** | 正しいビデオ入力を選択してください。詳しくはテレビの取扱説明書をご参照ください。 |
| | DVD/CD モードになっていることをご確認ください。 |
| **映像が歪む、または色が正しく表示されない** | 「TV タイプ」の設定を変更する際に左記の症状が発生した場合は、15 秒間自動的に回復するのを待ってください（21 ページ）。 |
| | プログレッシブスキャン機能を再生する際に左記の症状が発生した場合は、15 秒間自動的に回復するのを待ってください（36 ページ）。 |
| | すべてのケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。 |
| | 画像が多少歪むことがありますが、故障ではありません。 |
| | ディスクに汚れがある場合は拭いてください。 |
| **テレビ設定をしても画面サイズが切り替えられない** | ディスク情報および使用しているディスクの種類をご確認ください。 |
| | 「TV 設定」で選択した設定が、ご使用のテレビの仕様と一致しているかご確認ください。 |
| **音が出ない、または歪む** | 接続したアンプやテレビのボリュームを調節してください。 |
| | スピーカーが正しく接続されているかご確認ください。 |
| | すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。 |
| | オーディオケーブルが正しく接続されていることを確認し、ソースの入力選択ボタン（AUX など）を押してください。 |
| | サブウーファーの電源コードが正しく接続されているかご確認ください。 |
| | DVD レシーバーの対応ディスク情報および使用しているディスクの種類をご確認ください。 |
| **片側のチャンネルの音がほとんど出ない** | スピーカーが正しく接続されているかご確認ください。 |
| **アングルや字幕、音声言語などの機能が作動しない** | ディスクによって操作できない機能があります。ディスクのジャケット等にある説明もご覧ください。 |
| **DVD をビデオデッキで録画できない** | コピープロテクトがかかっている DVD は、複製することができません。 |
| **ディスクが自動で取り出される** | DVD レシーバーの対応ディスク情報および使用しているディスクの種類をご確認ください。 |
| **テレビ画面に表示されるメニュー項目を選択できない** | セットアップメニューに入る前に、□ キーを 2 度押して再生を停止してください。 |
| | ディスクによっては選択できないメニュー項目があります。 |
| **ディスクが再生できない** | DVD+R/DVD+RW/DVD-R/DVD-RW/CD-R/CD-RW のレコーダーでファイナライズされていないディスクは再生できません。 |
| | DVD レシーバーで再生できるディスク、映像方式（PAL または NTSC）およびリージョンコードをご確認ください。 |
| | ディスクが破損している可能性があります。別のディスクを再生してみてください。 |
| | セットアップメニュー画面を消すには、SET UP キーを再度押します。 |
| | 視聴制限レベルの変更や、ロックされたディスクの再生にはパスワードの入力が必要です。 |
| | DVD レシーバーの内部に結露が発生することがあります。ディスクを取り出し、1 時間程度電源を入れた状態で放置してください。 |

| 症状 | 解決方法 |
| --- | --- |
| **DVD レシーバーで再生している音声を外部レコーダーで録音できない** | 適切なオーディオソースを使用してください。 |
| **DVD レシーバーに接続した AV 機器で再生している音声を外部レコーダーで録音できない** | DVD レシーバーと AV 機器をアナログ接続してください。 |
| **音量が大きくならない / 音が歪む** | DVD レシーバーに接続している機器の電源を入れてください。 |
| **サブウーファーから音が出ない** | サブウーファーが正しく接続されていることをご確認ください。 |
| | セットアップメニューで、サブウーファーの音量を調節してください。 |
| | リモコンの SURROUND キーで、正しいサラウンド設定を選択してください。 |
| | 再生しているソースがサラウンド音声（DTS、ドルビーデジタルなど）で録音または放送されていることをご確認ください。 |
| **フロントパネルディスプレイに「SPEAKER ERR」と表示される** | サブウーファーの電源コードを抜いた状態で、フロントスピーカーが正しく接続されているかご確認ください。 |
| | DVD レシーバーの電源モードをスタンバイ状態にして電源コードを抜いてください。約 30 秒経ってから電源コードをコンセントに再接続して電源をオンにしてください。 |
| **放送局の受信感度が悪い** | 選択している放送局の電波が弱い場合、アンテナの高さや方向、設置場所を調節するか、別売りの屋外アンテナをご使用ください。 |
| | DVD レシーバーをテレビやビデオデッキから離して設置してください。 |
| | 正しい周波数に合わせてください。 |
| | 電気製品から雑音が出ている場合があります。アンテナをすべての機器から離して設置してください。 |
| **リモコンで DVD レシーバーを正しく操作できない** | リモコンのキー（▷ キー、⏮ / ⏭ キー）を押す前に、入力モードを選択してください。 |
| | リモコンの操作範囲内で操作してください。 |
| | 新しい電池と交換してください。 |
| | リモコン赤外線送信部を DVD レシーバーのリモコン受光窓に向けて操作してください。 |
| | 電池が正しくセットされていることをご確認ください。 |
| **DivX の映像を再生できない** | DivX ファイルが DivX バージョン 5.x の「Home Theater」モードでエンコードされていることをご確認ください。 |
| **DVD レシーバーが作動しない** | 電源コードを抜き、数分後にコンセントに再接続して電源をオンにしてください。 |
| **USB 機器が認識されない** | USB 機器が正しく接続されていることをご確認ください。 |
| | USB 大容量記憶装置でも、作動しない場合があります。 |
| | DVD レシーバーをスタンバイ状態にして、電源を入れてください。 |
| | DVD レシーバーをスタンバイ状態にして USB 機器を抜いた後、再度接続し、DVD レシーバーの電源を入れてください。 |
| | USB 機器に付属の AC アダプターがある場合は、接続してください。 |
| | テレビ画面に「USB 機器が対応していない」という内容のメッセージが表示された場合は、DVD レシーバーが USB 機器に対応しているかをご確認ください（「USB 機器について」31 ページ）。 |
| | テレビ画面に「USB 機器の消費電力が高すぎるため、対応していない」という内容のメッセージが表示された場合は、USB 機器を使用できません（31 ページ）。 |
| **HDMI 接続時、画像が表示されない** | 下記の手順で「HDMI 映像」を「480P」に切り替えてください。<br>1. フロントパネルの ⏏ キーを押してください。またはリモコンの □ キーを長押しし、ディスクを取り出してください。<br>2. リモコンの ◁ キーを押してください。<br>3. リモコンの AUDIO（音声）キーを押してください。 |

| 症状 | 解決方法 |
| --- | --- |
| **ディスクを DVD レシーバーに挿入できない** | DVD レシーバーの電源を入れて、ディスプレイに「NO DISC」と表示されてからディスクを挿入してください。 |
| | ⏏キー または ⊳ キーを押して、ディスク挿入口からディスクを完全に取り出し、ディスプレイに「NO DISC」と表示されてから再生したいディスクを挿入してください。 |

# 用語解説

**AAC（Advanced Audio Cording）**
MPEG-2/MPEG-4 オーディオ規格に含まれるデジタル圧縮オーディオ信号です。BS ／地上波デジタル放送で採用されています。最大で 48 チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。

**DivX**
DivXNetwork, Inc が開発した、映像や音声データを圧縮、伸張するプログラムです。3.11、4.x、5.x などがあります。高画質のままファイル容量を小さくすることができます。DivX 形式に映像を変換したり、作成したファイルを再生するには DivX 対応コーディングが必要です。

**DTS（Digital Theater Systems）**
Digital Theater Systems 社が開発したデジタル・サラウンド・システムです。最大 5.1 チャンネルのサウンドが再生でき、ドルビーデジタルよりも圧縮率が低いため、リアルな音響効果が得られます。

**JPEG（Joint Photographic Coding Experts Group）**
静止画像を 10 分の１～ 100 分の１に圧縮する技術です。名称は、画像圧縮アルゴリズムを制定する目的で設立された団体の名前（Joint Photographic Coding Experts Group）に由来します。風景や写真データなどを圧縮するのに効果的です。

**MP3（MPEG Audio Layer-3）**
高い品質を保ったまま、データ量を大幅に圧縮できる音声データ圧縮技術です。MPEG1 と MPEG2 の音声圧縮で使われています。CD 品質のデジタルサウンドデータを約 10 分の１に圧縮できます。

**MPEG（Moving Pictures Experts Group）**
動画および音声の圧縮規格の名称です。
ISO（工業標準の策定を目的とする国際機関 International Organization for Standardization の略）と IEC（電気、電子、通信、原子力などの分野で各国の規格・標準の調整を行なう国際機関 International Electrotechnical Commission の略）が共同で標準化しました。
MPEG1、MPEG2、MPEG4 の３つの規格があります。MPEG 1の画質は VHS ビデオ並みで、ビデオ CD などで利用されています。MPEG2 の画質は S-VHS ビデオ並みで、DVD ビデオなどで利用されています。

**VR（ビデオレコーディング）フォーマット**
録画後に編集ができる、DVD の記録方式です。VR フォーマット対応のプレーヤーでのみ再生可能です。

**S ビデオ端子**
S ビデオ信号を入出力する端子です。映像信号を、輝度を表す Y 信号と色を表す C 信号に分けて伝送するため、より美しい映像で録画、再生を楽しむことができます。

**アスペクト比**
画面や画像の縦と横の長さの比率です。従来のテレビは 3 対 4、ワイドテレビなどは 9 対 16 です。

**アナログ**
データが時間的または空間的に連続して変化する量で表されることです。アナログ端子は、左右２つのチャンネルから音声を出力します。

**HDMI**
HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は非圧縮のデジタル音声 / 映像インターフェイスです。HDMI はデータ出力元（セットトップボックスや AV レシーバーなど）と音声 / 映像モニター（デジタルテレビなど）を接続し、標準またはハイビジョン映像とマルチチャンネルのデジタル音声を 1 本のケーブルで伝送します。HDMI はすべての ATSC（Advanced Television System Committee）HDTV 標準を伝送し、将来的な要求に備えた処理能力で 8 チャンネルのデジタル音声を伝送します。
HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) と併用すると、コンテンツプロバイダーとシステム管理者にとって安全な音声 / 映像インターフェイスをご提供できます。
詳しくは、www.hdmi.org/ をご覧ください。

**インターレース**
１画面の走査線を奇数段、偶数段に分け、交互に表示する走査方式です。通常のテレビに使われています。

**コンポーネントビデオ端子**
コンポーネントビデオ信号を入出力する端子です。映像信号を、輝度を表す Y 信号と色を表す $P_B/C_B$ 信号及び $P_R/C_R$ 信号の３系統に分け、それぞれの信号を独立して伝送するため、色をより忠実に再現できます。

**サラウンド**
リスナーの周囲に複数のスピーカーを配置することで、３次元の音場効果を生み出すシステムです。

**視聴制限**
青少年に好ましくないディスクや場面の視聴を拒否するために DVD ビデオに組み込まれた機能です。

**ディスクメニュー**
DVD に音声、字幕、アングルなどの情報が収録されている場合、テレビ画面にメニューが表示されます。これらのメニューをディスクメニューと呼びます。

**ドルビーデジタル**
ドルビー社が開発したデジタル・サラウンド・システムです。完全に独立したマルチチャンネル音声を再生することができます。全帯域の音声成分を持つフロントの３チャンネル（フロント L/R、センター）と、サラウンドのステレオ２チャンネル、低音域専用の LFE0.1 チャンネルの、合計 5.1 チャンネルで構成されます。サラウンドがステレオ２チャンネルで収録されているため、音の移動感、木々のざわめきや波の音などの繊細な環境音もきめ細かく再現できます。

**ビット**
コンピューターで扱う最小の情報単位で、２進数を意味する binarydigit の略です。オーディオ用語では、アナログ信号をデジタル化する時の分解能のことを指します。ビット数が大きくなればダイナミックレンジ ( 小さい音と大きい音の差 ) が大きくなり、より細かな音量の変化が記録できます。音楽 CD のビット数は 16bit( ビット )、DVD オーディオでは最大 24bit( ビット ) です。

**ビットレート**
１秒間あたりのビット量です。

**プレイバックコントロール (PBC)**
テレビ画面に表示されるメニュー画面を見ながら、ビデオ CD やスーパービデオ CD の見たい場面や情報を選ぶことができる機能です。

**プログレッシブ**
１画面のすべての走査線を１度に表示する走査方式です。インターレースに比べ、ちらつきが少なく滑らかな画像を映し出すことができます。

**リージョンコード**
DVD ビデオの再生可能地域を限定するコードです。映画上映前の地域に DVD ビデオが出回らないことを目的に、DVD に組み込まれています。リージョンコードは全部で６つあり、地域ごとに割り当てられています。DVD プレーヤーとディスクのリージョンコードが一致しないと再生できません。

# 参考資料

## ■ 主な仕様

### DVD レシーバー (DVR-1000)

**チューナー部**

| | |
|---|---|
| FM 受信周波数範囲 | 76.0 ～ 90.0MHz |
| AM 受信周波数範囲 | 531 ～ 1602 kHz |

**ディスク部**

| | |
|---|---|
| レーザータイプ | 半導体 |
| ディスク直径 | 12 cm |
| ビデオデコード | MPEG-1/MPEG-2/DivX 3.11, 4.x & 5.x/DivX Ultra |
| ビデオ DAC | 12 ビット /108 MHz |
| 映像信号方式 | PAL/NTSC |
| ビデオフォーマット | 4:3/16:9 |
| コンポジットビデオ出力 | 1.0 Vp-p, 75 ohm |
| S ビデオ出力 | Y - 1.0 Vp-p, 75 ohm<br>C - 0.3 Vp-p, 75 ohm |
| コンポーネントビデオ出力 | Y - 1.0 Vp-p, 75 ohm<br>$P_B$/$C_B$ $P_R$/$C_R$ — 0.7 Vp-p, 75 ohm |
| オーディオ DAC | 24 ビット /192 kHz |
| 再生周波数帯域 | 4 Hz — 20 kHz (44.1 kHz)<br>4 Hz — 22 kHz (48 kHz)<br>4 Hz — 44 kHz (96 kHz) |
| オーディオ S/N 比 | 100 dB |
| 全高調波歪率 | 0.0035% |
| ダイナミックレンジ | 90 dB |

**オーディオフォーマット**

デジタル　ドルビーデジタル /DTS/MPEG Compressed Digital PCM/Packed PCM
16, 20, 24 ビット
サンプリング周波数 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4,192 kHz

MP3(ISO 9660)
24, 32, 56, 64, 96, 128, 256 kbps
サンプリング周波数 16, 22.05, 24, 32, 44.1, 48 kHz

WMA　32 ～ 192 kbps, mono, stereo

AAC

**総合**

| | |
|---|---|
| 電源電圧 / 周波数 | 100V, 50/60 Hz |
| 消費電力 | 26W（最高）<br>0.5W（スタンバイ） |
| HDMI 出力 | Type A |
| USB | Type A |
| AUX IN（ステレオミニ） | Φ3.5 mm ミニジャック |
| 外形寸法（幅×高さ×奥行き） | 435 x 78（後）/38（前）x 208 mm |
| 質量 | 3.2 kg |

### フロントスピーカー (NX-P1000)

| | |
|---|---|
| 型式 | 2 ウェイ密閉式 |
| インピーダンス | 6 Ω |
| スピーカーユニット | 11.0 cm ウーファー（防磁型）+<br>2.5cm ソフトドームツィーター（防磁型） |
| 再生周波数帯域 | 100 Hz ～ 20 kHz（-10dB） |
| 外形寸法（幅×高さ×奥行き） | 145 x 262 x 178 mm |
| 質量 | 2.9 kg |

### サブウーファー (NX-SW1000)

**総合**

| | |
|---|---|
| 電源電圧／周波数 | 100V, 50/60 Hz |
| 消費電力 | 200 W |
| 型式 | アドバンスドヤマハアクティブサーボテクノロジー |
| インピーダンス | 6 Ω |
| スピーカーユニット | 16cm コーンウーファー（防磁型） |
| 再生周波数帯域 | 35 Hz ～ 100 Hz（-10dB） |
| 入力感度 | |
| - AUX In | 300 mV |
| 外形寸法（幅×高さ×奥行き） | 230 x 477 x 440 mm |
| 質量 | 16.0 kg |

**アンプ部**

| | |
|---|---|
| 実用最大出力 | |
| - フロント | L/R 90W+90W<br>( 全高調波歪率 10% 1 kHz) |
| - サブウーファー | 100 W ( 全高調波歪率 10% 100 Hz) |

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

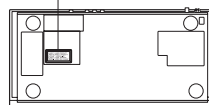
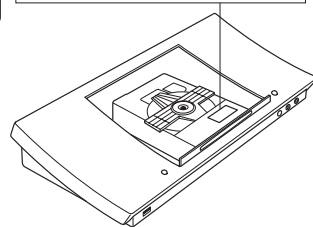
### レーザー

| | |
|---|---|
| タイプ | 半導体レーザー GaAlAs |
| 波長 | 650 n m（DVD）<br>784 n m（VCD/CD） |
| 出力 | 7mW（DVD/VCD/CD） |
| ビーム広がり | 60 度 |

**ご注意**

この取扱い説明書に記載されている以外の調節や操作は有害な放射を引き起こす可能性があります。

クラス 1 レーザー製品

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1 PRODUKT
LUOKAN 1 LASERLAITE
KLASS 1 LASER APPARAT
PRODUIT LASER DE CLASSE 1

CAUTION: INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN
DO NOT STARE INTO BEAM
DANGER: INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN
AVOID DIRECT EXPOSURE TO THE BEAM

## ■ 言語コード一覧

| アイスランド | 7383 |
|---|---|
| アイマラ | 6589 |
| アイルランド | 7165 |
| アゼルバイジャン | 6590 |
| アッサム | 6583 |
| アファル | 6565 |
| アフリカーンス | 6570 |
| アブバジア | 6566 |
| アムハラ | 6577 |
| アラビア | 6582 |
| アルバニア | 8381 |
| アルメニア | 7289 |
| イスピアク | 7375 |
| イタリア | 7384 |
| イディッシュ | 8973 |
| インターリングア | 7369 |
| インターリングア | 7365 |
| インドネシア | 7368 |
| ウェールズ | 6789 |
| ウォロフ | 8779 |
| ウクライナ | 8575 |
| ウズベク | 8590 |
| ウルドゥー | 8582 |
| 英語 | 6978 |
| エストニア | 6984 |
| エスペラント | 6979 |
| オーリヤ | 7982 |
| オランダ | 7876 |
| オロモ | 7977 |
| カザフ | 7575 |
| カシミール | 7583 |
| カタロニア | 6765 |
| カンナダ | 7578 |
| カンボジア | 7577 |
| ガリチア | 7176 |
| 韓国(朝鮮)語 | 7579 |
| キニャルワンダ | 8287 |
| キルギス | 7589 |
| ギリシャ | 6976 |
| クルド | 7585 |
| クロアチア | 7282 |
| グアラニー | 7178 |
| グジャラト | 7185 |
| グリーンランド | 7576 |

| グルジア | 7565 |
|---|---|
| ケチュア | 8185 |
| ゲール(スコットランド) | 7168 |
| コーサ | 8872 |
| コルシカ | 6779 |
| サモア | 8377 |
| サンゴ | 8371 |
| サンスクリット | 8365 |
| ショナ | 8378 |
| シンド | 8368 |
| シンハラ | 8373 |
| ジャワ | 7486 |
| スウェーデン | 8386 |
| スペイン ; Castilian | 6983 |
| スロバキア | 8375 |
| スロベニア | 8376 |
| スワヒリ | 8387 |
| スンダ | 8385 |
| ズールー | 9085 |
| セルビア | 8382 |
| ソマリ | 8379 |
| タイ | 8472 |
| タガログ | 8476 |
| タジク | 8471 |
| タタール | 8484 |
| タミル | 8465 |
| チェコ | 6783 |
| チベット | 6679 |
| 中国語 | 9072 |
| ツォンガ | 8483 |
| ティグリニア | 8473 |
| テルグ | 8469 |
| デンマーク | 6865 |
| トウイ | 8487 |
| トルクメン | 8475 |
| トルコ | 8482 |
| トンガ | 8479 |
| ドイツ | 6869 |
| ナウル | 7865 |
| 日本語 | 7465 |
| ネパール | 7869 |
| ノルウェー | 7866 |
| ノルウェー | 7879 |
| ハウサ | 7265 |

| ハンガリー | 7285 |
|---|---|
| バシキール | 6665 |
| バスク | 6985 |
| パシュト | 8083 |
| パンジャブ | 8065 |
| ヒンディー | 7273 |
| ビスラマ | 6673 |
| ビハール | 6672 |
| ビルマ | 7789 |
| フィジー | 7074 |
| フィンランド | 7073 |
| フェロー | 7079 |
| フランス | 7082 |
| フリジア | 7089 |
| ブータン | 6890 |
| ブルガリア | 6671 |
| ブルターニュ | 6682 |
| プロバンス | 7967 |
| ヘブライ | 7269 |
| ベトナム | 8673 |
| ベロルシア(白ロシア) | 6669 |
| ベンガル(バングラ) | 6678 |
| ペルシャ | 7065 |
| ポーランド | 8076 |
| ポルトガル | 8084 |
| マオリ | 7773 |
| マケドニア | 7775 |
| マダガスカル | 7771 |
| マライ(マレー) | 7783 |
| マラッタ | 7782 |
| マラヤーラム | 7776 |
| マルタ | 7784 |
| モルダビア | 7779 |
| モンゴル | 7778 |
| ヨルバ | 8979 |
| ラオ | 7679 |
| ラテン | 7665 |
| ラトビア(レット) | 7686 |
| リトアニア | 7684 |
| リンガラ | 7678 |
| ルーマニア | 8279 |
| レトロマンス | 8277 |
| ロシア | 8285 |
| ヴォラピュック | 8679 |

# 索引

## あ行



## か行



## さ行



## た行



## な行



## は行

## ま行


## ら行


## わ行


## A


## C


## D


## E


## F


## G


## H


## I


## J


## L


## M


## N


## O


## P


## R


## S


7

付録

## T



## U



## V



## W



## Z

# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

### ■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

### ■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

## ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

### ■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

**修理お持ち込み窓口**
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

**北海道** 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

**首都圏** 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

**浜松** 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

**名古屋** 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

**大阪** 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

**九州** 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

### ● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

### ● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

### ● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

### ● 修理料金の仕組み

**技術料**　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

**部品代**　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

**出張料**　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

### ● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

### ● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

### ● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

### ● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

**摩耗部品の一例**
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

### 永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

**こんな症状はありませんか？**

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

**すぐに使用を中止してください。**

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

**ヤマハ株式会社**
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1